さくらピア
避難所体験
2009

９月１９、２０日に開催したさくらピア避難所体験の様子です。

１３：３０　中消防署井坂氏の防災講話には、障害者と家族、近隣の方、民生委員等、約１２０名の方にお集まりいただきました。みなさん、真剣です。

１３：５０　火災警報と共に訓練が始まり、非常口から会館前の桜ヶ丘公園に避難しました。今回は非常階段に工事用の足場を設置していたので、車いすの方、下肢の不自由な方は３階からエレベーターで降りました。エレベーターが使用できない場合、布担架や滑り台式非常スロープがないと下りることはできません。

← １２０名全員の避難完了に、約２０分もかかりました。手前にいるのは手話通訳の方です。訓練のために来てくれていますが、本番はどうなるか分かりません。

２つのグループに分かれ、一方は初期消火を体験しました。公園に遊びに来ていた人も集まりました。

← もう一方のグループは、
地震体験車「グラッド号」に乗りました。
山下徹豊障連会長も車いすに乗った状態で乗車しました。すごい揺れだったそうです。

↙ １５：００
「息子はダウン症、母は耳が聞こえない」平野千博さんの、２００２年東海豪雨での被災・避難所体験を聞きました。「体育館では、息子は迷子になるし、自分は放送が聞こえないし、大変でした。」会場にいた車いすの女性は、「伊勢湾台風のときは足の手術のため入院していて、２階の病室に移されてからはじっとしているより他になかった…」とコメントしていました。

↓ １９：００からの話し合いの前に、体育館に簡易トイレ、プライベート間仕切り、豊橋防災ボランティアコーディネーターの会（防災ＶＣの会）手作りの防災グッズ、低肺機能障害用の酸素濃縮機等が持ち込まれました。

利用者みなさんの防災意識の向上をねらいとして、「防災設備確認ラリー」を実施しました。これをきっかけに、さくらピアをはじめとした各施設の防災設備に関心を持っていただけるとありがたいです。消火器は全部見つかったかな？

１９：００　夜の話し合いの様子です。障害別のグループに分かれて、災害時の不安や避難所生活について感じていること、必要だと思うことを話し合いました。

←　身体障害者のグループは、一番問題が深刻です。「避難所に辿り着くことができないよ」と、口々に移動手段の不安が聞かれました。
車いすでの移動には、バリアフリーが欠かせません。

聴覚障害者のグループです。　→
「手話通訳者がいないとき、どうやって情報を得るのか？」
「普段から近隣の方と交流し、耳が聞こえない人の存在を知ってもらうことが大事…」

↓　防災ＶＣの会による「防災グッズ紹介」。
リサイクルして防災グッズを作ろう。

↑　知的障害者のグループは、「子供がパニックをおこしたり、迷惑をかけたりしないか心配…」
別室を用意する等の対応が必要です。

↓　目の見えない方も参加されていました。
「自分は目が見えないから、目立つベストでも着たほうがいいかな…」

２１：００　宿泊体験が始まりました。

もしもの時の看護師さんを含めて、２５名が体育館で一夜を過ごしました。
さくらピアでの「機能訓練」で使っているゴムマットを下に敷いて寝た人が多かったのですが、それでも硬く感じたようです。また、朝になってのどが少し痛くなったという人も多かったです。まだまだ蒸し暑いとはいえ、体育館の中は乾燥するのでしょうか。いずれにしろ、大半の方は寝苦しかったようです。

２０日７：３０　非常食試食　　→
朝食は、非常食の五目ご飯と味噌汁です。

９：３０　まとめの話　　→
今回参加した感想を、グループごとに発表していきました。同じく福祉避難所に指定されているあいトピアの豊橋市社会福祉協議会松井氏より、要援護者対策充実に向けてのコメントがありました。

↑　低肺機能障害の前田さんは「酸素濃縮機を避難所に用意してほしい」、「今後も防災ＶＣの会と連携していきましょう」とアピール。防災ＶＣの会さんからは、心強い応援の声をいただきました。

さくらピア避難所体験2010

９月１８日１９日

山下会長あいさつ
「この機会に活発な意見をお願いします」

霧嶋明美氏（神戸市手をつなぐ育成会理事長）
「災害時は、おろおろする姿を障害児に見せないで、
いかに安心させてあげられるかがカギです」

岩井史子氏（神戸市手をつなぐ育成会理事）
「安否確認は団体の連絡網で。避難所
に行けない人も救援物資がほしい」

中消防署　井坂氏

地震体験車では、震度６の揺れを体験しました。

→　夜の話し合いの様子です。障害別に様々な意見が出ました。

←　防災ＶＣの会による、防災グッズの展示。防災紙芝居もありました。

朝食の非常食を2階図書談話室で食べました。アルファ米の五目ご飯と、具だくさんの豚汁、保存水、おまけにナスの塩もみ。おいしかった！

さくらピア避難所体験２０１１　９月１７日１８日

応急手当講習と避難訓練

応急手当講習の様子です。
創造大学看護学科の学生さん９名が協力してくれました

三角巾の使い方を覚えておくと、いざという時に便利です

今年２月導入の
イーバックチェア（階段避難具）

布担架での救助訓練

はしご車による救出・放水訓練

中消防署　金子氏
「大震災の教訓を
今後の防災対策に
活かしましょう」

さくらピア避難所体験２０１１

障害者の防災を考える

今回は「配慮」について
具体的に話し合いました

市役所の方も参加しました

トラブルが起こる
とお互いにつらい。
別室にしてほしい

トイレが心配です。
下肢障害者は時間もかかります

手話通訳者の居場所を周知して

乾パンが食べられない子もいます。
炊き出しの材料も教えてください

障害者の方こそ、健常者より
高い防災意識を持ちましょう

さくらピア避難所体験２０１１

非常食試食
水汲み訓練

準備は参加者の方に協力していただきました。ありがとうございます

これ、おいしい？

ご飯と味噌汁、保存水。お味はどうかな？

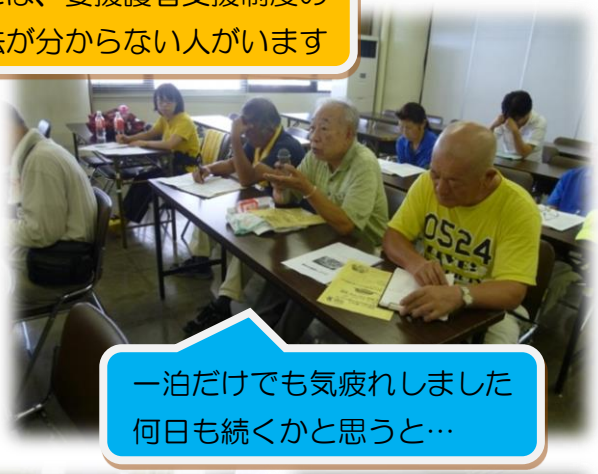
おいしいわよ～！

お皿を洗う斎藤さん。働き者ですね

水汲み訓練です。
屋上プールの水を１階
トイレまで運びました。
みなさん、
朝からお疲れ様でした

さくらピア避難所体験２０１１　まとめの話

高齢者には、要援護者支援制度の申請方法が分からない人がいます



一泊だけでも気疲れしました何日も続くかと思うと…

みなさんの声を聞かせてください

子どものことだけを考えすぎて自分のものは忘れてしまい…

今ある制度を上手に解釈して、有効活用していきましょう

救急医療用キットをぜひ活用してください

知的障害者の場合は、同居していても要援護者支援の対象にしてほしい

東日本大震災で得た教訓を大切にしよう

３才児は静かにできません。避難所生活は大変かも？

障害を分かりやすく、自分からアピールする方法を考えてみよう

避難所体験①防災交流会

於：さくらピア、桜ヶ丘公園
２０１２年９月２９日３０日

避難所体験②夜の防災訓練

於：さくらピア、桜ヶ丘公園
２０１２年９月２９日３０日

避難所体験 ③宿泊体験と非常食試食

於：さくらピア、桜ヶ丘公園
２０１２年９月２９日３０日

避難所体験④まとめと講評

於：さくらピア、桜ヶ丘公園
２０１２年９月２９日３０日

防災訓練

※避難所体験とは別に、法定の防災訓練を冬に実施しています。

２０１２年2月１７日

防災講話
豊橋市中消防署　金子氏

写真や動画で分かりやすく
説明してくれました

被災地ビデオ上映

それぞれのグループで
しっかり防災意識を
高めてください

みんな熱心にお話を聞いています

イーバックチェア体験

ゴミ袋を工夫して
水容器に使います

利用者のみなさんにも
体験していただきました

非常食試食

豚汁とハイゼックス包装食を
みんなでおいしくいただきました

さくらピア 消防訓練

2013年
2月15日

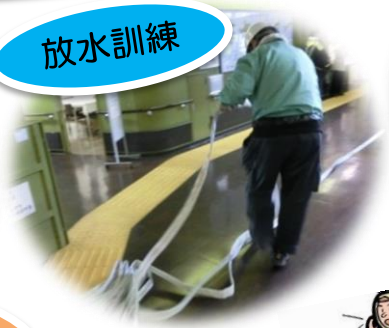
緊急放送を
よく聞いて行動しよう

防災頭巾を着用しています

各部屋の利用責任者の指示に
したがって避難しました

手すりは両側にほしい

放水訓練



放水開始 !!

消火器は
①ホースを前へ
②黄色のピンを抜く
③グリップを握る

消火訓練

繰り返しの訓練が大切です
ご協力ありがとうございました

目　次

グラビア……Ｐ　１
　平成２１年度～２４年度さくらピア避難所体験
　平成２３年度さくらピア防災訓練
　平成２４年度さくらピア消防訓練

あいさつ……Ｐ１８
　山下　徹（豊橋障害者(児)団体連合協議会会長）
　木村昌弘（豊橋市福祉政策課長）
　本田栄子（さくらピア事務長）

平成２１年度さくらピア避難所体験　当日配布資料……Ｐ２１
　　〃　　報告書……Ｐ２５

「豊障連」とは？……Ｐ３０

平成２２年度さくらピア避難所体験　当日配布資料……Ｐ３１
　　〃　　報告書……Ｐ３７

豊橋市の指定避難所について……Ｐ５０

平成２３年度さくらピア避難所体験　当日配布資料……Ｐ５１
　　〃　　報告書……Ｐ５９

平成２４年度さくらピア避難所体験　当日配布資料……Ｐ６９
　　〃　　報告書……Ｐ７７

グラビア……Ｐ９７
　平成２３年度さくらピア３・１１追悼セレモニー
　さくらピアの四季

「さくらピア避難所体験の取り組み」の発行にあたり

現在、豊橋市には９ヶ所の「福祉避難所」があります。有事の際、一般の避難所では生活できない人たちが確認されると「福祉避難所」が開設されます。豊橋障害者(児)団体連合協議会（以下豊障連）では、平成１７年度から「福祉避難所」のあり方や体制などについての要望書を豊橋市へ提出しています。しかし、「福祉避難所」がどのように運営されていくのかということは、はっきりとした答えが出ていないのが現状です。

東日本大震災の発生、従来の東海・東南海・南海の三連動に加え、新たな南海トラフ巨大地震の想定、異常気象など、災害はいつ来るか分からないため、備えや準備、対策は必要です。

豊障連では、平成２１年度より豊橋市障害者福祉会館さくらピアの指定管理を受託し、事業のひとつとして「さくらピア避難所体験」を行ってきました。さくらピアも「福祉避難所」として指定されており、有事の際には、本当に機能するのかとの不安もありました。また、当事者の親御さんから「うちの子は避難所で生活できるのか、寝ることができるのか」などの声もあり、この「さくらピア避難所体験」につながりました。

経験に勝るものは無く、４年間の流れの中で実施してきたことは、参加された皆様方にとっては、大きな財産になっていることと思います。そして、私たち、豊障連にとってもいくつもの新たな発見がありました。

できることならば、少しでも多くの方々に「さくらピア避難所体験」を経験していただきたいのですが、体調や必要機材、備品などの都合で難しい方々に向けて、また、一般避難所の運営に携わる方々に、この「さくらピア避難所体験の取り組み」の報告書を是非、ご覧いただき、備えや準備、対策の参考にしていただければ幸いと考えております。

豊橋障害者(児)団体連合協議会
会長　山下　徹

「さくらピア避難所体験の取り組み」の発行について

豊橋障害者(児)団体連合協議会が、指定管理者として平成２１年度から実施している「さくらピア避難所体験」４年間の取り組みが一冊の報告書としてまとめられ、このたび発行されることに対し、事業を継続してこられたみなさんに敬意を表するとともに心からお喜びを申し上げます。

平成２３年３月１１日の東日本大震災の発生、従来の東海・東南海・南海の三連動に加え、新たな南海トラフ巨大地震の想定など、大規模災害に対する備えは、喫緊の課題となっております。とりわけ、障害者や要介護認定者のみなさんは、災害時に指定避難所での避難生活が困難になる場合、福祉避難所に移っていただくことが想定されます。

本市では、「さくらピア」をはじめとする９か所の福祉避難所に備蓄品などを整備するとともに、福祉避難所の運営マニュアル作りや専門性を持った避難所運営スタッフの確保といった課題への取り組みを進めております。

「さくらピア避難所体験」では、障害者、その家族、近隣住民などが、防災訓練、応急手当の講習会、自衛官や消防士による防災講話、炊き出し体験など、様々なメニューによる宿泊訓練を実施されております。その中で、参加者同士の活発な意見交換が行われ、訓練の最後にはグループごとに「意見のまとめ」が発表されています。こうしたことを通じて、障害者や家族のみなさんの防災意識が高まり、地域の絆も深まるものと考えております。

現在、市内の各校区で自主的な防災訓練が実施されていますが、障害者を中心とした宿泊型の訓練は「さくらピア」だけであり、今後もこうした取り組みが継続されることに期待しております。

豊橋市福祉政策課長　木村　昌弘

はじめに

障害者の防災対策はなかなか進みません。理由は様々ですが、障害者自身も「毎日の暮らしに精一杯で、もしものことなど考える余裕がない」、「動けないのだから仕方がない」と、つい後回しになっているようです。

その一方で、行政や社協、障害者団体の役員さんたちが、先の震災の教訓を無駄にしないように、有事に備えての提言や呼びかけをしています。報告集や参考資料も、その気になればたくさん手に入れることができます。なのに、情報はごく一部で留まっていて、障害当事者みんなのものになっていません。

豊橋障害者(児)団体連合協議会は、平成２１年度より、豊橋市から「豊橋市障害者福祉会館さくらピア」の指定管理を受けました。

広い会館に集う人々が有事の際に安全に避難するために、また、未だ心細い「福祉避難所」の充実のために、障害者一人一人が防災施策を人任せにすることなく、主体的に考え、備えることが必要です。

「障害者こそ、一般市民より防災意識を高く持って欲しい」と、豊橋防災ボランティアコーディネーターの会の方がおっしゃっています。意識を変えるには、実際に体験することが一番です。そこに、避難所体験の意義があります。

今回、４年間に渡る「さくらピア避難所体験」のあゆみを、一冊の本にまとめました。災害から命を守るために、助かった命が復興に向けて力強く生活できるように、避難所生活を工夫してたくましく切り抜けられるように…。

この本が、「避難所体験に参加しよう」、「避難所体験を企画しよう」、「障害者と一緒になったときの対策を立てよう」というように、みなさんの具体的な行動の後押しになれば幸いです。

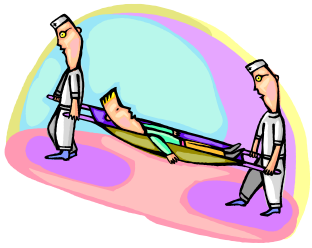
さくらピア事務長　本田　栄子

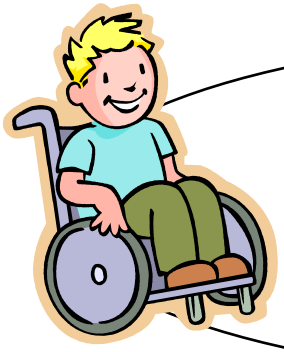
当日配布資料

第１回
さくらピア
避難所体験

体験しよう備えよう
障害者の防災

２００９年９月１９日（土）
２０日（日）





障害者が避難所で生活すると
どんなことに困るのか？
解決のためにできることは？
一緒に考えてみよう！

主催：豊橋障害者(児)団体連合協議会
共催：豊橋市
協力：豊橋市中消防署
　　豊橋防災ボランティアコーディネーターの会

◆スケジュール◆

１９日

第１部　（３階大会議室）

①防災訓練　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３：３０～１４：５０

豊橋市中消防署からお話を聞きます。訓練放送にしたがって速やかに、非常階段を用いて桜ヶ丘公園へ避難してください。（ただし今回は工事中なので、車いすの方や歩行困難な方は、エレベーターを利用して１階まで降りてください）

②障害者被災体験講演　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５：００～１６：００

「こどもはダウン症、母は耳が聞こえない　東海豪雨被災体験」

講師：平野千尋 氏

プロフィール

昭和４９年名古屋聾学校中学部卒業、昭和５１年名古屋聾学校高等部２学年普通科中退後、昭和５５年名古屋市立錦高等学校定時制入学。平成９年息子の療育を目的に３人の子供たちと一緒に渡米し、カリフォルニア州立大学ノースリッジ校へ語学留学する。現在は「聴覚・ろう重複センター」勤務中。*（講演当時）*

著書「世界中の人たちに愛されて―ろう者ちひろママとダウン症たかひろ 」

文芸社ビジュアルアート （２００９/０３）

第２部　（１階体育館）

①プライベート間仕切り組み立て実演　・・・・・・・・・・１８：４５～１９：００

②防災グッズ紹介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９：００～１９：１５

講師：豊橋防災ボランティアコーディネーターの会

不用品をリサイクルして、オリジナル防災グッズが作れます。

③講演「豊橋市の避難所状況」　・・・・・・・・・・・・・・１９：３０～２０：００

講師：小林康樹 氏（豊橋市福祉保健課長）

④障害者の防災を考える（夜の話し合い）　・・・・・・・２０：００～２１：００

障害別グループで災害時の心配事について情報交換し、具体的な対策を考えます。

第３部　（１階体育館）

①体育館宿泊体験　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１：００～　７：００

体育館に宿泊して、福祉避難所としての機能をチェックしてみましょう。

２０日

②非常食試食　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７：３０～　８：３０

２階図書談話室で、非常食（ごはん）、味噌汁を食べます。

第４部　（３階大会議室）

まとめの話　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９：３０～１１：００

避難所体験に参加した感想を、グループごとにまとめて発表します。

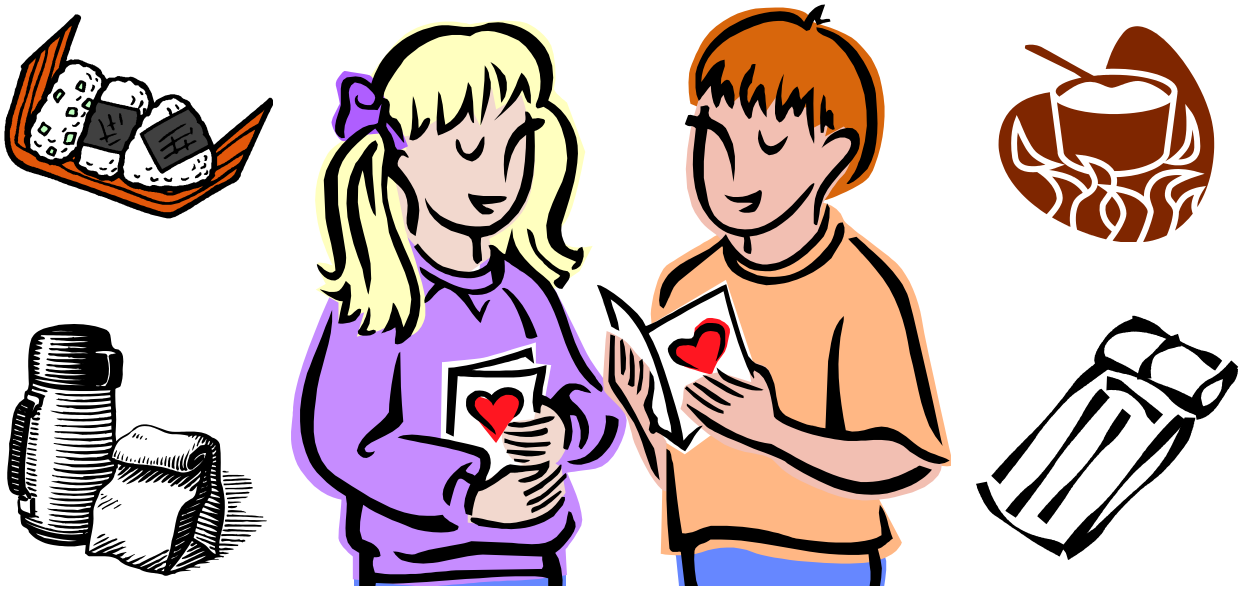
考えてみよう
障害者の避難所生活

何が心配？　何ができる？

☆自助（じじょ）～自分や家族で工夫して備えよう
まず、自分のことは自分で

☆共助（きょうじょ）～友達やご近所さん、ボランティアの人たちとお互いに助け合おう

☆公助（こうじょ）～行政の施策がよりよいものになるように、みんなの声を伝えよう



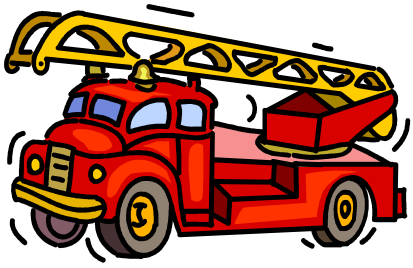
自分の目で確かめてみよう！

さくらピア防災設備確認ラリー

見つけたら、シールを貼ってください。

消火器は　どこにあるでしょう？

地下	1	2	3	4	5		
1階	6	7	8	9	１０	１１	１２
2階	１３	１４	１５	１６	１７	１８	
3階	１９	２０					
4階	２１	２２					



消火栓は　どこにあるでしょう？

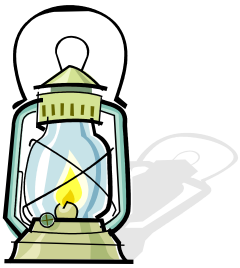
1	2	3	4	5	6	7

非常口は　どこにあるでしょう？

地下	1	2	3	
1階	4	5	6	7
2階	8	9		
3階	１０	１１	１２	
4階	１３	１４		

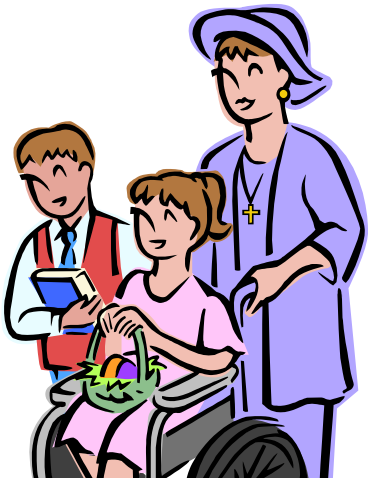
防火扉は　どこにあるでしょう？

1	2	3	4	5	6



第１回
さくらピア避難所体験
（２００９年9月１９日～２０日）

報　告　書



第１部
　防災訓練
　障害者被災体験講演
第２部
　防災グッズ紹介
　夜の話し合い

第３部
　体育館宿泊体験
　非常食試食
第４部
　まとめの話

話し合おう　私たちの　防災
伝えよう　隣へ　地域へ　行政へ
つなげていこう　少しでも
安心できる　避難所体制作りに

▼考　察▼

避難所体験企画責任者
事務長　本田栄子

●防災訓練●

２階談話室からの火災発生を想定した。職員一同が出勤している状態で、警報から出火地点確認、初期消火、通報、誘導などを分担した。しかし、実際は交代勤務で、２名しか勤務していない場合もあるので、勤務状況に合わせた訓練も必要である。また、避難時にエレベーターが使えない場合は非常階段を使うことになるが、車いす利用者等がいる場合、誰かが担いで降りることになる。平担架では非常階段を曲がり切れないため、座位や小回りのきく布担架を支給していただきたい。

避難完了後、中消防署から派遣していただいた地震体験車の試乗体験を行った。山下徹豊障連会長は車いすに乗って試乗した。参加者は、車が揺れると机にしがみついていた。とっさに逃げることができず、掴むものもないとすれば、真の恐怖を体験することになる。

また、「防災設備確認ラリー」と題して、会館内の消火器等の位置を参加者に確認していただいた。職員数が少ないので、有事の際は来館者に協力していただく可能性がある。会館利用者に対する消火器等の周知や、防災意識の向上促進のために、文化祭等のイベントでも楽しく防災知識を学ぶ企画を試みたい。

●障害者被災体験講演●

ダウン症の子を持つ、聴覚障害者の平野千博さんを招いての講演。手話での講演を見たことのない方が多く、参加者は熱心に聞いてくれた。「夜の暗闇の中では口の形を読むことができないので、顔にライトを当ててほしい」「手話ができなくても、身振りでもなんでもいいから伝えてほしい」「体育館で子どもが迷子になって大変だった」等、当事者ならではの話だった。伊勢湾台風に話が及ぶと、ある方は「手術したばかりで動けず、病院の２階で心細く怖いだけの夜を過ごした」と、当時の心境を振り返っていた。

●防災グッズ紹介●

豊橋防災ボランティアコーディネーターの会（以下防災ＶＣの会）に協力を申し出ていただいた。知識だけではなかなか実感が湧かないものだが、実物を見ることで身近に感じることができたと思う。また逆に、防災関係者に障害者特有の悩みを聞いてもらういい機会となった。今後とも交流を続けていきたい。

●講演「豊橋市の避難所状況」●

豊橋市福祉保健課長をはじめ、福祉課管理職の方には多数ご参加いただいた。ありがとうございました。

●障害者の防災を考える（夜の話し合い）●

内容は、第２回さくらピア避難所体験当日配布資料に掲載　（※Ｐ３４～３５参照）

●体育館宿泊体験●

参加した知的障害児にとって体育館は普段から慣れた場所であり、また過ごしやすい季節でもあったため、パニック等を起こす子はおらず、わりあい静かに夜は更けていった。ただし朝になって機嫌が悪くなり、大声で叫び続けた青年がいた。小さな赤ちゃんや具合の悪い方がいる場所で、あの大声が３０分でも続いていたら、保護者は肩身の狭い思いをすることになる。

参加者は計２５名と少なく、広々と寝ることができたが、実際にそうはいかないだろう。豊橋市発行「防災のてびき」には、さくらピア体育館の利用定員は２１９人と記載されている。３人/２畳の概算比を体育館面積に掛けた値と思われるが、現実的には荷物置き場、車いす通路の確保を考慮しなければならない。「避難場所における考慮」の具体案が必要とされるといえる。

宿泊にあたって、低肺機能障害の方は酸素濃縮機を業者から借用した。ほか、痰吸入等の医療的ケアには電源が欠かせないため、コンセント位置の確認等を含めて、深く考慮した上で参加者を配置しなければならない。

就寝時に用いた機能訓練用マットは、ずいぶん役立った。ただしベッドではないため、下肢不自由者のマットから車いすへの移動は大変そうだった。関連して、今回は使用しなかったが、体操マットも活用できるだろう。

●非常食試食●

２階図書談話室で、あいトピアから借用した大鍋を用い、参加者と手分けをして調理した。アルファ米は、お湯を注ぐ前に袋から乾燥剤とスプーンを取り出す必要があるが、乾燥剤が入ったまま調理した方が３名もいた。今回は笑い話で済んだが、有事の際には些細なことでも非難を浴びるかもしれない。

非常食は参加者一同で食べた。手の不自由な方にとって、袋は開けにくい、お湯を注いでからすぐには運べない、スプーンの柄が短いこと等が確認できた。健常者以上に障害者にはしたくてもできないことがある、ということを実感するのは一緒に何かをした時だといえる。

準備・調理には、知的障害者も参加した。リーダーが各自に見合った仕事を指示できれば、障害者もお荷物ではなく戦力になる。福祉避難所における知的障害者に対しては要援護者という振り分けだけではなく、他の障害者や高齢者等、要支援者に対して援助ができる人材として捉える視点があるのではないか。また、他の障害者、例えば身体障害、内部障害者等による作業の指示や電話対応、資料の作成等を含めた、相互協力の体制を構築できればいいと思う。

●まとめの話●

参加者から出された要望・感想の多くは、先行の報告書等に記載されている。また、災害対策マニュアルは、国・県・市等、段階に応じて作成されてはいる。しかしそれらは、障害当事者や家族の要望、支援ボランティアの温かな気持ち、地域の理解とほとんど結びついていないのが現状である。さくらピア避難所体験での学習成果を、今後の防災施策の充実につなげるためにも、市や社協をはじめ、関係機関と連携していきたい。

●避難所体験実施後の動き●

・豊橋市防災危機管理課より、災害用毛布１５０枚が支給される。体育館２階ランニングコースに保管。（２００９年９月３０日）

●検討課題●　*※斜体は事後追加*

・歩行困難者搬送用器具の不備

※平成２２年３月、布担架を購入。

※平成２３年２月、イーバックチェアを購入。第３回避難所体験「防災訓練」で使用した。

・簡易照明器具の不足（現在は夜間巡回用懐中電灯２本のみ）

※第４回避難所体験「夜の防災訓練」で再認識。

・防災用ラジオの不備

※平成２４年５月、豊橋市より支給された。

・洋式トイレの不足（利用者からの指摘）

※平成２３年３月、多目的トイレ「みんなのトイレ」が設置された。

・防災知識向上のためのレクリエーションの企画

※「さくらピア防災カード」を制作。第３回避難所体験で配布した。

※第４回避難所体験で「防災なるほどクイズ」を実施。

・法人等バリアフリー機能のある施設との、障害者受入れ体制への連携

※豊橋市が実施。

・他の福祉避難所との連絡体制の整備、検討委員会の設立

・関係機関との情報交換、合同学習会の開催

・次回避難所体験への準備

・避難所用物品の充実

・災害時要援護者支援制度についての理解促進と普及

１階ロビーで関係書類、見本等を掲示しておく。

・不審者侵入時の対応物品（さすまた等）

・「避難所用物品保管庫」の充実、活用

避難所要物品保管庫が指定管理以前から事務室に保管されている。中身はろうそく２本、ランプ１個、パトライト１個だけなので、災害対策本部の確認を得たい。

●避難所体験を振り返って●

はじめに

障害者の防災対策はなかなか進まない。その理由は様々だが、障害者自身も、「動けないのでしかたがない」という諦めに加えて、目の前の生活に立ち向かうのが精一杯で、期日指定のない有事に対してまで取り組む余裕がないのが現状である。災害のニュースを聞くたびに不安になるというのに…。

避難所体験開催までの経過

２００５年７月、国際障害者交流センター（大阪）で開催された「第１回災害時における障害者への支援ボランティア養成研修」に２日間参加し、全国の障害者支援体制を学んだ。その時の講師の一人、浦野愛氏の所属するＮＰＯレスキューストックヤードの本拠地が名古屋にあることが縁となり、同年９月１９日の「災害時要援護者の避難所対策を考えるシンポジウム」には、当時豊障連評議委員の山下徹現会長が、障害児の親の立場からシンポジストとして出席した。

その後、手をつなぐ育成会は柏崎地震被災者講演会、聴覚障害者団体は阪神淡路大震災被災者講演会を開催した。また、肢体不自由児(者)父母の会はＡＪＵから講師を招き、災害講話を実施した。このように、各障害者団体で障害者防災に関心が高まっていた。

災害をテーマにした集会が開催されるたびに、当事者も家族も、深いため息とともに大きな不安を口にしている。しかし、平成２１年３月発行「豊橋市障害者福祉計画」には*「防災・災害対策や防犯対策を充実してほしいという要望は、障害者は１割未満」*と記載されている。こうした「記述」と、「障害特性への配慮が望まれる現実」とのズレを認識し、豊橋市との共通課題として取り組む体制が必要である。その方針の下、さくらピア避難所体験を企画することになった。

おわりに

さくらピアが福祉避難所に指定されていることは一部の役員しか知らず、一般の方にはほとんど認知されていない。また、指定管理開始当初は防災対策についての引継ぎ事項等はなく、発災時に福祉避難所を開設する場合、何が必要でどんなことに困るのか、把握できていなかった。

今回の避難所体験を通して、さくらピアの物的管理面において布担架、炊き出し鍋、救急箱や懐中電灯等、災害対策用常備品の不足・不備が分かった。

今後、豊障連としては、他の福祉避難所や福祉施設と連携し、連絡会の形成、災害時障害者受け入れ可能施設研究会の立ち上げ等を行政に提案する必要がある。

豊橋障害者(児)団体連合協議会

ほうしょうれん
豊障連

〒440-0812 豊橋市東新町 15 番地
豊橋市障害者福祉会館 さくらピア内
Tel(0532)53-3153 / Fax(0532)53-3200
http://hosyoren.jp/

どんな団体なの？

豊橋市肢体不自由児(者)父母の会
豊橋市聴覚障害者協会
豊橋市手をつなぐ育成会
豊橋身体障害者協会
豊橋身体障害者(児)福祉団体連合会
豊橋精神障害者地域家族会

上記の6団体で構成されています

会員は？

身体障害者、知的障害者
精神障害者、家族などです

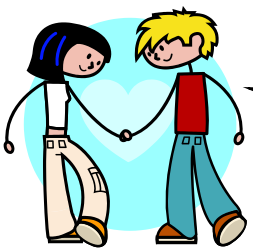
目的は？

障害種別にとらわれず、連合組織の中でお互いの立場を理解するところから始め、
その輪を広げることで、社会理解へとつなげることです

どんなことをやっているの？

納涼祭り・体育祭・文化祭などのイベントで会員相互及び地域との交流を図るほか、障害理解への啓発活動を行っています

平成 21 年度から、豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」を指定管理しています
会館管理のほか、相談事業・スポーツ文化教室等の運営を行っています



さくらピアへ
あそびにきてね！

当日配布資料

体験しよう備えよう
障害者の防災を考える集い

第２回

さくらピア
避難所体験

と　き：２０１０年９月１８日(土)～１９日(日)
ところ：豊橋市障害者福祉会館さくらピア

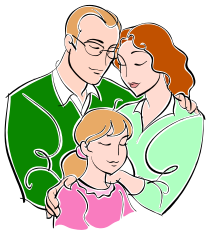
主催：豊橋障害者(児)団体連合協議会
共催：豊橋市
後援：豊橋市社会福祉協議会
協力：豊橋市中消防署
　　豊橋防災ボランティアコーディネーターの会

◆スケジュール◆

１８日（土）

＜第１部　講演・防災訓練＞　（３階大会議室　→　桜ヶ丘公園）

◆障害者被災体験講演 …… １３：３０～１５：００



「阪神・淡路大震災、その時、知的障害者たちは…
報告集『きずな』につづられた思い」

講師：霧島明美 氏
（神戸市手をつなぐ育成会 理事長　(株)いくせい 取締役）
岩井史子 氏
（神戸市手をつなぐ育成会 理事　　(株)いくせい 取締役）

◆避難訓練、初期消火訓練、地震体験車 …… １５：１０～１６：４５

中消防署井坂氏の防災講話を聞きます。その後、放送にしたがって、非常階段から桜ヶ丘公園に避難してください。（現在、非常階段に工事用足場を組んでいるため、下肢不自由の方はエレベーターを利用してください）

避難完了後、初期消火訓練と地震体験車試乗を予定しています。

＜第２部　集　い　＞　（１階体育館）

◆防災グッズ紹介 …… １９：１５～１９：４０

家庭で眠っている不用品が、命を守る防災グッズに生まれ変わります。
講師：豊橋防災ボランティアコーディネーターの会

◆障害者の防災を考える（夜の話し合い） …… １９：４０～２０：３０

障害別グループで情報交換し、災害対策を具体的に考えます。

◆防災紙芝居「おそろしい台風」 …… ２０：３０～２０：４５

講師：尾崎公枝 氏
（豊橋防災ボランティアコーディネーターの会）

＜第３部　宿泊体験　＞　（１階体育館）

◆体育館宿泊体験 …… ２０：００～　７：００

体育館に宿泊して、福祉避難所としての機能をチェックしましょう。

１９日（日）

◆非常食試食 …… ７：３０～　８：３０

非常食を食べましょう。おいしい豚汁付きです。

＜第４部　まとめの話＞　（３階大会議室）

◆まとめの話 …… ９：３０～１１：００

避難所体験に参加した感想をグループごとに発表し、今回の成果を次につなげます。

講評者　井口健二 氏（豊橋市障害福祉課長）
松井晴男 氏（豊橋市社会福祉協議会事務局長）
高柳致子 氏（豊橋民生委員・児童委員連絡協議会副会長）

防災訓練について

きょうは　さくらピア避難所体験にご参加いただき

ありがとうございます

訓練は　講演会の後で　始まります

３時半ごろに　放送が入り

非常口から　桜ヶ丘公園に　避難します

さくらピアの職員は　交代勤務で

朝晩は　２名しか　いない時もあります

みなさんが　会館利用中に　地震や火事が起きても

職員は　助けに行くことが　できないかもしれません

利用者のみなさん自身が　非常口の場所を把握して

仲間と助け合って　避難できるように　訓練を企画しています

どうか　ご協力　よろしくお願いします

あわてず　いそいで　桜ケ丘公園に避難してください

さくらピア事務長　本田栄子

◆みんなの意見（第１回「夜の話し合い」より）◆

肢体不自由者と家族（支援者）グループ

- 肢体障害のため、洋式トイレでないと用を足すことができない。
- 第一、第二避難所に洋式トイレが設置されていない。
- 肢体障害者はトイレの使用頻度が高くなることを考慮してほしい。
- 異性介護が付く場合、男女別トイレのどちらを利用すればいいのか分からない。
- さくらピアの障害者用トイレは男女別に分かれているため、異性介助がしにくい。

※平成２３年３月、多目的トイレ「みんなのトイレ」が１階にできました。

- 避難所に、トイレに流せるウェットティッシュがほしい。
- 避難所に、紙オムツの交換場所がほしい。
- 肢体障害のため、ベッドでないと寝ることができない。
- 避難所に行くことができない。
  （車いすでの移動ができない、大勢では動けない、段差が降りられない等）
- 避難所では角（隅）を割り当ててほしい。（肢体障害者は移動が難しいため）
- 避難所では、食事の介護が難しい。
- 避難所にスプーン、ストローを用意しておいてほしい。
- 避難所に、とろみを用意してほしい。（重度障害の場合、水分摂取等のため必要）
- 避難所に行けない（行かない）人にも、食料を用意してほしい。
- 家族単位で福祉避難所に受け入れてほしい。
- 障害者を避難所に事前登録するシステムを作ってほしい。（登録証等の用意も）
- 避難所に電源がほしい。（重度障害者の食事にミキサーを使用する等）
- 該当する第一、第二避難所では、１～２日でも過ごせるとは思えない。

身体障害者と視覚障害者のグループ

- 視覚障害者は、防災の手引き等、防災情報の入手が難しい。
- 避難所に、視覚障害者のガイドおよび専用ルームがあるといい。
- 低肺機能障害者は、避難所生活が難しい。（酸素濃縮機と電源の確保が不可欠）
- 隣近所の付き合いがなく、障害特性が理解されていない不安がある。
- さくらピアの体育館は、マイクの音が反響して聞きとりづらい。

聴覚障害者のグループ

- 手話通訳者がいない場合、情報があったとしても把握できない。
- 聴覚障害のため、電話応対ができない。
- 見た目だけでは、聴者/ろう者の区別が判断できない。
- 地域毎のろう者、通訳ボランティアが把握できていない。
- 障害者団体に加入していない方への周知はどうすればいいのか。
- 聴覚障害のため、災害情報の入手が難しい。
- 高齢の聴覚障害者の移動手段の確保が難しい。
- 周りが聞こえる人ばかりだと、孤立してしまう。

知的障害者と家族（支援者）のグループ

- 障害児が他の人に迷惑をかけるのが心配。
- トイレの個数が少なく、確保できるか心配。
- 福祉避難所への被災者の振り分けが、どうなるのか不安。
- 福祉避難所への移動方法が心配。行きたくても行けないかも…。
- 障害児や兄弟児、多動性障害の子供がいる場合、母親だけでは面倒を見きれず、援助を必要とする場合がある。できることなら、家族ぐるみで福祉避難所へ行きたい。
- 避難所には障害者専用の部屋がほしい。数年前にある会議でその旨を伝えると「災害時はみな被災者なのだからそれは無理」と言われたことがある。
- 周囲の人が、障害児のことをどこまで理解してくれるのか。
- 避難所要員の障害者対応がしっかりしているのかどうか。
- 避難所要員とのコミュニケーションが心配。
- 避難所の責任者がはっきり分かっていない。
- 町内の災害時協力員を知らない。
- 避難所生活は、３日間でも耐えられるとは思えない。
- 豊橋は、名古屋や静岡に人材・物資を取られるおそれがあると聞いている。
- 川や山に寸断され、孤立するらしいので不安。
- 避難所指定施設でも、液状化が心配。

＜どうすれば　不安が減るか　考えてみましょう＞

①自分や家族でできること

③行政に取り組んでほしいこと

②仲間や団体、近所でできること

自分の目で確かめてみよう！

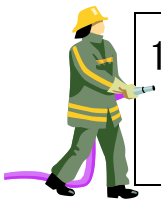
さくらピア防災設備確認ラリー

見つけたら　指文字スタンプを　押してください

消火器は　どこにあるでしょう？

1階	1	2	3	4	5	6	7
2階	8	9	10	11	12	13	
3階	14	15					

消火栓は　どこにあるでしょう？



1	2	3	4	5	6	7

非常口は　どこにあるでしょう？

1階	1	2	3	4
2階	5	6		
3階	7	8	9	

さくらピアで　何が起こっても　落ち着いて行動できるように
日頃から　防災設備を　確認してくださいね

第2回さくらピア避難所体験

実施報告書

2010年9月18日～19日

主な内容

・障害者被災体験講演
・防災訓練
・防災グッズ紹介
・障害者の防災を考える（夜の話し合い）
・体育館宿泊体験
・非常食試食
・まとめの話

総参加者数　のべ240名

◆障害者被災体験講演（要約）◆

講師：神戸市手をつなぐ育成会　理事長　霧島明美 氏
理事　　岩井史子 氏

大地震、火災、その脅威と被害。そのとき、私たちのまわりの知的障害者と家族は…。

直下型地震は被害が一極集中する傾向があり、大阪等には被害が少なかったので、全国から本当にたくさんの人が助けに来てくれた。ハード面の復旧は割と早かったが、ライフラインである水、電気、ガスのうち、特に水不足は長期に渡った。地震直後の知的障害児たちは、びっくりしたのか普段よりおとなしくなっていたが、その後徐々に精神面への影響が現れはじめた。震災後、電車に乗れなくなってしまった人もいる。

障害者の避難場所をめぐって、問題が生じた。障害児を持つある家族は、通学中の養護学校に行ったところ、すでに一般の近隣住民で満員で、入所することができなかった。別のケースでは、障害児を持つ３家族が学校に避難した。その際、学校側の配慮によりその３家族に保健室が提供されたが、一般の方から「不公平だ」と声が上がり、一般の２家族と同室することになった。案の定気まずい雰囲気になってしまい、結局その避難所を出ることになってしまった。せめて、養護学校等が避難所になった場合には、障害者やその家族を優先して扱ってほしい。

地震直後は電話連絡等ができる状況ではなかったため、安否確認としては各避難所を回るぐらいしかなかった。３番目に行った避難所の入所者名簿の中に、育成会会長の名前があった。会長は自宅が倒壊したにもかかわらず、地区会員の安否確認に走り回ってくれていた。障害者団体に所属していれば、行政機関が行うよりも早く、安否確認や情報収集をすることができるだろう。

私たちがふだん利用していた学校や会館は、避難所になったものもあれば、倒壊してしまったものもある。育成会としての活動を行う場所に苦労したが、少し離れた作業所を拠点として、機関紙の発行や安否確認等を行った。残念ながら、親戚等の住む遠方に避難したまま、神戸に戻ってこなかった方もいる。

避難所には食糧等の救援物資がたくさん届いた。しかし、諸事情により避難所に行くことができない方に対する援助システムは何もなかった。障害ゆえに自宅から動くことのできない方々のために、救援物資を届けるための何らかのルートが必要だと思う。

大災害が起こった時、子どもに対して特に大事だと感じたことは、お母さんの態度だった。子どもに動揺を見せることなく、「大丈夫だよ」と笑顔で振る舞ってほしい。もちろん、内心は動揺しているのかもしれないが、それは子どものいない場所で吐き出してほしい。その時々の親の表情や態度が、震災後の立ち直りにも影響したのだと思う。

安否確認に走ってくれた役員の方々には感謝しなければならない。しかし役員も被災者であることに変わりなく、諸事情により活動できない方もいた。「あの役員は来たがこの役員は来なかった」などと責めることは決してしないでほしい。

今後の目標としては、「なだびと・さぽーと手帳」のようなものを作りたい。今回の話が何かひとつでもお役に立つことができればうれしい。

◆障害者の防災を考える（夜の話し合い）◆

＜身体障害者グループ＞

①自分や家族でできること

- まずは自分の部屋の整理、整頓をして、どこに何があるのかを把握し、避難路を確保することが重要。
- 災害時要援護者制度の登録をする。せっかくの制度は活用しないともったいない。
- 必要と思われる自分の個人情報は、何らかのかたちで公開しておく。
- 担当の民生委員を把握しておく。

②仲間や団体、近所でできること

- 携帯電話をはじめとした連絡先を、お互いに把握しておく。
- 日頃から、近隣住民と交流しておく。
- 災害に対する心得を定期的に掲げ、防災意識を喚起する。

③行政に取り組んでほしいこと

- 最初から受け入れてもらえる、要援護者用の避難所を設けてほしい。
- 民生委員の方に、もっと訪問してもらいたい。

＜車いす利用者グループ＞

①自分や家族でできること

- 避難場所として、家族で最終的におち合う場所を決めておく。
- 防災グッズを準備しておく。
- 家具の転倒防止対策をする。
- 家の通路に、物を置かないようにする。
- 風呂に水をいつも溜めておく。

②仲間や団体、近所でできること

- 緊急時の地域連絡網を整備する。
- 日頃から、隣近所に声かけをしておく。
- 発災時には、「わが家は無事です」という張り紙を玄関等に掲示する。

③行政に取り組んでほしいこと

- 福祉避難所である養護学校や福祉施設等に、障害者が最初から避難できる体制を整えてほしい。
- 災害時要援護者支援制度の登録条件「ひとり暮らし」を外してほしい。
- 避難所に行けない人にも、食料等の配給をしてほしい。
- 避難所に洋式トイレを備えてほしい。

＜聴覚障害者グループ＞

①自分や家族でできること

- 筆談に備えて、筆記用具を用意しておく。
- 万が一、家が倒壊した時のために、枕元に笛を用意しておく。笛の音で居場所を知らせることができる。
- ＬＥＤを用意する。会話ができないので、レーザーライトで合図を出す。

②仲間や団体、近所でできること

- 各地域のろう者、通訳者の確認を、聴覚障害者協会で取り組む。
- 近隣住民と仲良くしておく。

③行政に取り組んでほしいこと

- 民生委員を紹介してほしい。自分の地域の民生委員が誰なのか、まだ分かっていない聴覚障害者は多い。
- 消防や防災対策関係の人たちに、ろう者のことをもっと理解してほしい。
- 耳が聞こえないので、災害時は視覚的な情報を提供してほしい。

＜知的障害者グループ＞

①自分や家族でできること

- 避難所が混雑して家族と会えない可能性があるので、家族だけの集合場所を事前に決めておく。災害時にはそこに集合し、家族そろって避難所に行ったほうが安心できる。
- ガムテープとマジックペンを用意しておく。氏名、けがの状態、障害種、必要な薬等を記入した紙を衣服に貼り付ける等の工夫によって、第三者が理解しやすくなる。
- 自己紹介できる手帳のようなものを持っておくとよい。知的障害者からの積極的なコミュニケーションは難しいので、情報を提示することによって理解してもらう工夫をする。

②仲間や団体、近所でできること

- 普段から近所付き合いを大切し、近隣の方に障害特性を理解してもらう。
- 緊急時にリーダーを担える方が地域に２、３名いると、災害時にスムーズな対応ができて助かる。

③行政に取り組んでほしいこと

- 避難所には、障害者・病弱者等専用の部屋を作ってほしい。
- 知的障害者は、パニックを起こして周りに迷惑をかける可能性があるので、一般の方と共に避難所生活を送ることは難しい。一般の方に対する、障害特性の理解促進が必要。
- 大人を対象にした福祉勉強会を開催してほしい。

＜精神障害者の意見を代弁して＞

豊橋精神障害者地域家族会くすのき会　草場昭彦

はじめに

日本の精神障害者数は全国で約3,０２８,０００人、と厚労省が公表していていることから、人口比率上、豊橋市内在住の精神障害者数は約8,０００人と推定することができます。しかし、平成２２年９月に豊橋市が公表した「第２期豊橋市地域福祉計画の策定について・中間報告」における「精神保健福祉手帳の所持者数」では、わずか１,５８１人となっています。また、他障害（身体障害者(児)及び知的障害者(児)）にあたっては、手帳所持者(児)数と推定障害者(児)数がほぼ同数であるのに対して、精神障害においては、手帳所持者数は推定障害者数の約２０％に止まっています。

このことは、今も相変わらず日本社会において何か事件があるたびに、メディアが精神障害者にかぎって「精神科医療機関等への通院・入院歴」を併記し続ける、といった差別的扱いの存在等が、手帳所持者数が増加しない大きな要因の一つとなっていることを物語っているかのようです。

したがって、このような差別的扱いが現存している社会環境下にあっては、精神障害者自身が各地域で開催される各種行事等に積極的に参加すること自体が、「まだまだ困難な状況にある」ことに関して、他の障害者団体及び地域の皆さんのご理解をいただきたく、お願い申し上げます。

①自分や家族でできること

精神障害者は、精神疾患という「病気」を有することから、非常時にあっても「通院と服薬」が不可欠です。したがって、万一に備えて日頃から「最低であっても３日分、できれば１週間分の薬」と、投薬時に提示される「処方内容説明書」を身近な所で保管すること。

②仲間や団体、近所でできること

障害特性から見て一般的には、可能な範囲において家族を中心とした近隣間の対人交流を深める努力を心掛けることが、最善と考えます。

③行政に取り組んでほしいこと

豊橋市医師会の中に「精神科医会」があるので、非常時の際の「診察と投薬」機能を確保するための具体的対策を策定し、広く市民に周知徹底を図ること。

※　日頃、さくらピアには精神障害をお持ちになられる方も多数ご来館されますが、避難所体験への参加は残念ながらありませんでした。そのため、豊橋精神障害者地域家族会くすのき会代表の草場昭彦氏から、ご意見をいただきました。

◆「宿泊体験」参加者アンケートより◆

体育館の様子はどうでしたか？

- 今回は、昨年と比べて気温が高く、寝苦しかったです。（多数）
- クーラーが止まってからは、暑かったです。
- 体育館は暑かったですが、うちわ等を持参することによって、いくらか凌ぐことはできると感じました。
- 体育館では、ビニールシートの擦れる音等、小さいはずの音もよく響きました。
- 体育館は広々としていて、その点ではよかったのですが、声が反響し、よく聞こえるのが気になりました。
- 去年よりも参加者が多く、人の動きや気配に敏感になり、寝相を見られたくないという気持ちも働いたためか、寝付けませんでした。
- 体育館の床は、寝るには硬くて、腰が痛くなってしまいました。
- 床が硬くて身体が痛かったうえ、寝返りも打てなかったので、寝ていません。
- マットを持参したので床の硬さは気になりませんでした。マットがなければつらかったと思います。
- 下肢障害のため、床から立ち上がりにくそうにしている方がいました。
- 一度寝付くことはできましたが、途中で目が覚めてしまいました。
- 会話している人の声が気になりましたが、いつの間にか眠りに落ちました。朝の冷え込みを心配していましたが、ちょうどよかったです。
- 想像していたより楽に過ごすことができました。
- 参加者が少ないためか、夜は静かに快適に眠ることができました。
- 参加者が少なかったので場所に余裕があり、助かりました。
- 今回で２度目の参加でした。昨年の経験もあって、落ち着いて過ごせました。
- 体育館はスペース十分でゆとりがありましたが、災害時に大勢詰めかけたとしたら、果たしてどうなるか。体育館の受け入れ可能人数は、どれくらいなのでしょうか？
- 体育館は、広さからして１００～１５０名くらいを収納するのが限界だと思います。人が大勢集まった場合、空調設備がちゃんと機能するのか、気になりました。
- 希望者だけでもいいので、体育館内更衣室のシャワーを使用することができれば、より快適だと思います。
- 体育館は整理、整頓、清掃が行き届いていました。
- 定期的に窓を開けて、換気する必要があると感じました。

さくらピアに避難するとして、どんな設備がほしいですか？

- 障害特性を考慮し、洋式トイレの数をもっと増やす必要があると思います。（多数）
- 特に配慮のいる障害者と、その家族のための個室がほしいです。（多数）
- シャワールーム等の入浴設備が充実してほしいです。
- 大きい調理室や、食事用の部屋があると便利だと思います。
- 避難者が多数集まることを考えると、毛布、マット等の充実が望まれます。
- １階に、洗面所とトイレを増やしてほしいです。
- 体育館内にトイレがあると、移動の手間が省けて便利です。
- 多目的な使用を兼ねた、休憩室がほしいです。
- プライベートを守る仕切りがあると、安心感が増すと思います。
- 車いす利用者は布団からの起き上がりが難しいため、ベッドが必要です。

何か気がついたことがあれば、教えてください。

- トイレの洗面台の、水の出が悪かったです。
- トイレのトラブルは深刻なので、すぐに対応できるような体制でいてほしいです。
- 下肢障害のため、実際の避難所での場所は、トイレの近くにしてほしいです。
- 集団行動を苦手とする障害（自閉症、情緒障害等）を持つ方の居場所作りを考えていかなければならないと思います。
- 夜間介護が行われる場合、他の方の睡眠を妨げない工夫が必要かと思います。
- 聴覚障害者の参加が少なかったです。聴覚障害者が自分自身に必要な配慮を具体的に考えていくためにも、自分には必要ないと思わず、ぜひ参加してほしい。
- 聴覚障害者にとっては、避難所には手話通訳者の存在が不可欠です。手話通訳者を配置できるシステムのようなものがあると、ありがたいです。
- 聴覚障害者に限らず、視覚情報を分かりやすく掲示することが大切だと思います。
- 今回特に困ることはありませんでしたが、人で溢れ返る実際の避難所では、困難がたくさん待ち構えているのだと思います。
- 日頃利用されている方は、安心して宿泊することができたと思います。
- 昨年より参加者が多かったです。より多くの障害者の参加を期待しています。
- 宿泊体験への参加は、自助、共助のあり方を考えるきっかけとなりました。
- 災害時のリーダー的存在が、各地域にひとりでも多くいてほしいと思います。
- たとえ１日だとしても、避難所での生活はつらいと思いました。
- 災害時要援護者への理解を広げるためにも、ぜひ一般の方に避難所体験に参加していただきたいと思います。
- 行政に携わる方にも、さくらピア避難所体験に参加していただき、障害者防災に目を向けるきっかけとしてもらいたいです。
- さくらピアに限らず、豊橋市の福祉避難所の設備面が気になりました。
- さくらピアの屋上プールの水は、災害時の入浴支援として活用できるかも、と思いつきました。
- さくらピアの要援護者への配慮を基盤にした管理運営は、障害者にとっての理想的な避難所作りへと、つながっていくものだと思います。
- 災害時には地元の避難所に行くことになると思いますが、さくらピアでの経験はどの避難所に行っても活かすことができるものだと思います。
- 朝食の非常食がとてもおいしかったです。
- 消化しやすい非常食があるとありがたいです。
- 重度障害児のために、とろみの付いた非常食があるといいと思います。

宿泊体験参加者内訳

障害者　２１名　家族　３名　その他　１０名　　総数　３４名（昨年から９名増加）

障害種別

- 肢体障害（下肢、上肢、脳性まひ、脳血管）　・聴覚障害
- 内部障害（低肺機能、心臓機能）　・知的障害（ダウン症）

上記のうち、車いす利用者４名（うち２名の介護にボランティアが協力）
ほか、酸素濃縮機利用者１名、呼吸補助具利用者１名

◆「まとめの話」より◆

＜身体障害グループ＞

・私（低肺機能障害）の携帯酸素ボンベは午前９時４０分現在、あと１時間半ほどしかもたない。昨日朝９時過ぎに交換用ボンベ２本を持ってさくらピアに来たが、丸一日が経って、残りわずかになってしまった。災害時にボンベがないと困るが、そもそも避難所においても、酸素濃縮機が使えるのか不安を感じている。
・豊橋市にも、障害者が最初から入所できる福祉避難所の設置が望まれる（神戸市等には存在する）。
・宿泊体験では、床で寝たためか、腰が痛くなった。また、ベッドだとすぐに立ち上がれるが、床だと難しかった。体育館はスペース十分で楽に過ごせたが、有事の際はここまで快適には過ごせないと思う。

＜車いすグループ＞

・障害児の娘を含めた家族３人で宿泊体験に参加したが、夜中には娘が発作を起こしてしまい、朝にはおもらしをしてしまった。娘の状況を見ると、実際に災害に巻き込まれたら大変なことになると思う。
・宿泊体験では、他の参加者から介助していただき、とても助かった。
・ベッドでの生活が多い人には、クッションベットやマットレスが必要。
・障害児の息子はトイレの回数が多く、昨年はトイレに行くのが大変だった。そのため周りの方には申し訳ないが、今回は体育館で尿瓶を使用させてもらった。
・必要なものは自分で準備することが大切と思い、今回はマイスプーンを持参した。

＜知的障害グループ＞

・障害者被災体験講演は、同じ障害児の親として、胸が詰まる内容だった。
・体育館宿泊の際にうちわを持参したので、暑さが和らいだ。
・体育館の中で他の参加者が立てる音は、結構気になるものだと思った。
・体育館での避難所生活は、一晩ならまだいいが、数日に渡るとなると不安。
・様々な障害特性を、一般の方にも理解してほしい。
・障害者専用の部屋の確保、ひいては福祉避難所の存在等は、障害者を特別扱いしていると一般の方に受け取られがち。しかし、障害者が迷惑をかけたり、お互いに不愉快な気持ちになったりしないために必要な措置だということを理解してほしい。そのためにも、一般の大人を対象にした福祉勉強会等の実施が必要。

＜聴覚障害グループ＞

・宿泊体験では消灯時間が早く、環境も普段と違うため、なかなか寝付けなかった。朝も早く目が覚めてしまい、あまり眠れなかった。
・宿泊体験には手話通訳者が付かなかった。本田さん（事務長、手話ができる）がいたので何とかなったが、他の避難所では心配。そのためにも、目に見える情報がほしい。
・手作り防災グッズの紹介は勉強になった。今後、自分でもチャレンジしてみたい。

＜豊橋防災ボランティアコーディネーターの会＞

・昨年に引き続き、本当に貴重な体験ができた。
・さくらピアは思いやりがあるため、避難所としても過ごせると思う。
・障害者防災の認知度向上のために、一般の方と合同で避難所体験ができるとよい。

＜講評要約＞

豊橋市障害福祉課長　井口健二 氏

- 火災、竜巻など、災害は地震だけにとどまらない。豊橋では、河川の増水もそのひとつとして数えられる。
- 訓練直後の緊張感は、月日が経つとどうしても薄れてしまう。災害は今日、明日にでも起こるかもしれない、という気持ちを持ち続けることができるかどうかが大事。
- 防災ＶＣの会紹介の階段降機は、次回の避難所体験でデモンストレーションしてもらいたい。
- 「夜の話し合い」に出たように、自分にあった防災グッズを準備するなど、できることは自分で行うようにしたい。
- 要援護者支援制度は障害等級に対する制限はないので、この制度を使える方は上手に活用してもらいたい。ただし「一人暮らし」であることが条件（健康な家族との同居の場合は不可）となっており、その点に関しては、家族が怪我をした場合等、様々な緊急事態を考慮した上で柔軟な対応が求められる。
- このような避難所体験事業を、障害当事者団体である豊障連が実施していることはすばらしいと思う。「高額設備の要望は市へ」と本田事務長が言うように、市民のみなさまが何を求めているのか、ぜひ私たちに伝えてほしい。

豊橋市社会福祉協議会事務局長　松井晴男 氏

- 昨年の「夜の話し合い」では、「～してほしい」等のお願い意見が多く見られた。それと比較すると、今回は自分たちが必要なこと、やれることに関して、具体的な話し合いがなされている。内容が充実しつつあり、すばらしいと感じた。
- 今回提出された意見は障害種別により様々で、それぞれ必要な支援は異なるため、全面的な支援は難しいと感じた。今後いっそう、障害特性別のニーズに合わせた支援のあり方を、掘り下げて検討する必要がある。
- 福祉避難所に最初から行きたいという意見（現状ルールでは、第一・第二避難所→福祉施設→福祉避難所の順）があったが、豊橋市全体の状況を考えると、福祉避難所に行き着くのは難しいため、介護福祉方式を取り入れるといいかもしれない。
- 今回の訓練は対策本部が立ち上がった状態から始まっているが、実際には人が集まってから本部ができ、ようやく活動できる。そうした状況下で避難所の管理運営を首尾よく行っていくためには、ボランティアをはじめとして、管理運営に携わる人に対して、やってほしいことを的確に伝えることが大事。
- 「なだびと・さぽーと手帳」はとても参考になる。より充実した障害者防災の実現に向け、障害特性に応じた個別の課題や問題点を、今後も積極的に提出してほしい。
- さくらピア避難所体験は非常に貴重な事業だと思う。今後も継続してほしい。

豊橋民生委員児童委員連絡協議会　高柳致子 氏

- 「障害者被災体験講演」での阪神淡路大震災のＤＶＤ映像には、あらためて当時の恐ろしさを痛感させられる。私自身、三河大地震等を経験しているが、大震災の過酷な状況下、避難所で大勢のボランティアが働いてくれている姿を見ると、感謝の気持ちでいっぱいになる。
- 大災害が起これば、健常者以上に障害者の方々は苦労されることになる。先々の不安を見据え、こうした行事を開かれたこと、また、宿泊体験をはじめとして積極的に参加、勉強するみなさんの姿勢に敬意を表したい。

▼考　察▼

避難所体験企画責任者
事務長　本田栄子

●障害者被災体験講演●

神戸市手をつなぐ育成会を招いた。「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」制作ＤＶＤ視聴を併せ、災害の恐怖、震災後の水不足、避難所での問題点、ボランティア活動等を学んだ。ＤＶＤには字幕がないので、手話通訳者をスクリーン横に配置した。

講演で指摘された以下３点は、今後の豊橋市の災害弱者対策を考えるにあたって、大いに参考になると思われる。

- 障害児が家族と避難所である養護学校に行くと、すでに一般の近隣住民でいっぱいで、入所できなかった。
- 避難所である学校側の配慮により、知的障害児を持つ３家族に保健室が提供されると、一般の方から苦情が入ったため、一般の２家族が追加されることになったが、結局は気まずくなってしまった。
- 安否確認は、行政機関より所属団体が行うほうが速やかだった。

※Ｐ３８参照

●防災訓練●

避難訓練は昨年同様、２階図書談話室からの出火を想定し、３階大会議室から桜ヶ丘公園に避難した。会館利用中の方々にも参加していただき、階段を降りることができない下肢不自由者は、エレベーターを利用した。障害者、高齢者が多かったので避難完了には時間を要したが、繰り返しの訓練により、職員の誘導なしに利用者各自が避難路通りに避難できるようになることが理想的である。

また、平成２２年度消防設備保守契約業者の常友防災には契約通り、避難訓練、初期消火訓練の指導を務めていただいた。福祉施設運営上の契約は金銭的、物理的条件のほか、障害者に対する理解、対応等を鑑みるのが望ましい。

地震体験車、初期消火訓練も内容的には昨年同様だったが、初参加の方が多く、勉強になったと思われる。

●防災グッズ紹介●

防災ＶＣの会による、防災グッズの展示、説明。目の前で実物やその作り方を示すことで、カタログだけでは分かりにくいことに対しても、参加者は熱心に耳を傾けてくれた。障害特性を見越した防災対策を考えるにあたって、大いに役立つ情報がたくさんあった。また、会館常備の簡易トイレの展示、常友防災による避難袋の中身の展示を併せた。

●障害者の防災を考える（夜の話し合い）●

マンネリ化を避けるため、昨年度避難所体験で提出された意見は配布資料に記載した。その上で、不安のはけ口としてのみ終わることのないよう、３種類のテーマ（①自分や家族でできること、②仲間や団体、近所でできること、③行政に取り組んでほしいこと）を設け、テーマ別に意見を募った。昨年同様、障害別にグループを構成し、それぞれが話し合いの末に出した意見を用紙に記入し、グループの意見として発表していただいた。

※Ｐ３９～４１参照

●体育館宿泊体験●

実施にあたっては、緊急時に備え、１階トレーニング室に看護師を配置した。また、高齢の保護者が大人の障害者の介助を行うことは体力的に難しいため、食事や排泄の介助には防災ＶＣの会の協力を得た。

体育館には今年７月から冷暖房を設置しているが、災害時の停電を想定した訓練の一環として、２１時３０分ごろに冷暖房を停止した。その後、館内の気温上昇にともない、重度身体障害の方（４０代女性）が発作をおこした。家族の方から「冷却剤を貸してください」と言われたが、あいにく常備していなかった。代わりに氷で冷やしたタオルで応急手当てをしたところ、熱は下がり大事に至らずに済んだ。重度障害者は、体温調節に難のある場合が多い。本番を想定することは大切だが、それだけにいっそうの配慮が必要となること、また、医療従事者の存在が不可欠であることを痛感した。救急車を呼ぶような事態にならず、ホッとした。

昨年に引き続き参加していただいた方も多い。ある障害児の保護者は昨年の反省を活かし、尿瓶を持参して体育館の中で息子さんの排泄を処理したとのことだったが、周りの方々はどう感じただろうか。避難所運営にあたっては、障害者ニーズを把握して事前に対策を準備することにより、トラブルを最小限にすることができるのではないか。

例えば、紙オムツ利用者がいる場合は、その交換場所等を明確にする。知的障害者が奇声を発する場合等は、ストレスの少ない場所を確保する。身体障害により体育館床で寝ることができない場合は、マットレスを優先的に支給する。電気が必要になる場合（今回の宿泊体験では、酸素濃縮機、呼吸補助具を使用された方がいた）は、当該者をコンセント付近に配置し、コードの養生、通り道確保、つまずきによる事故防止の周知等…。数え始めるときりがないが、障害種別によって多様に生じうる問題への「気づき」の場として、さくらピア避難所体験は貴重だといえる。豊橋市の防災事業関係者にもぜひ参加していただければ、と思う。

多数の出入りが生じ、緊急事態も予想される避難所になると、万全の管理点検は難しい。不審者の侵入、知的障害者等の無断外出による事故等を未然に防止するためにも、点検項目、巡回時刻、担当者等の明確化が求められる。

※Ｐ４２～４３参照

●非常食試食●

朝食として非常食（アルファ米の五目ご飯、保存水、豚汁）を支給した。昨年度避難所体験での反省から、乾燥剤を抜き忘れないこと、中身をよくかき混ぜること、真空密封すること等に気をつけて作り、おいしくできあがった。

アルファ米の包装内には小さいプラスチックのスプーンが備え付けられていたが、上肢障害のある方から「これでは食べにくい」との申し出があり、別のスプーンを貸し出した。避難所生活でも同様の問題が生じる可能性があるため、あらかじめ自分に合ったものを用意しておく必要があるといえる。昨年に引き続き２回目の参加となる方々の中には、用意周到にマイスプーン、コップを持ってきた方もいた。重度障害児の保護者からは、とろみのある非常食がほしいという意見も上がった。

食事の場でよりよい環境を提供するためには、摂食介助者の位置、車いす通路の確保、熱湯等危険物の取扱い方法の明示等も重要である。そうした「気づき」があるかどうかによって、避難所における食事の雰囲気が変わるだろう。

●まとめの話●

避難所体験に参加した感想を、障害種別のグループ毎に発表していただいた。講評者と共に、参加者それぞれが障害者の観点から防災を論じるきっかけとなった点において、意義ある企画を実行できたと思う。さくらピア避難所体験は「当事者発信の防災企画で、非常に価値がある」（豊橋市障害福祉課長　井口氏）、「前向きな積み重ねが感じられる」（豊橋市社会福祉協議会事務局長　松井氏）との言葉をいただいた。

今回の避難所体験では、精神障害者の参加はなかった。障害特性的に集団行事には参加しにくいことは確かだが、精神障害をはじめとした意見が聞こえにくい障害者の声も、防災対策に反映させていく必要があると感じている。

※Ｐ４１、４４～４５参照

●避難所体験実施後の対応●

- 冷却剤の購入（発熱等緊急時への対応として）
- トイレに流せるウェットティッシュの購入（おむつ着用者からのニーズ）
- 報告書の作成（音声コード付き）、関係機関への実施報告
- 職員間における連絡体制の確認
- 壁新聞の作成

●検討課題●　*※斜体は事後追加*

・歩行困難者搬送用器具の不備

※平成２２年３月、布担架を購入。

※平成２３年２月、イーバックチェアを購入。第３回避難所体験「防災訓練」で使用した。

・簡易照明器具の不足（現在は夜間巡回用懐中電灯２本のみ）

※第４回避難所体験「夜の防災訓練」で再認識。

・防災用ラジオの不備

※平成２４年５月、豊橋市より支給された。

・救急用具の不足

※実施後に購入。

※関連して、第３回避難所体験で「三角巾の使い方講習」を実施。

・洋式トイレの不足（利用者からの指摘）

※平成２３年３月、多目的トイレ「みんなのトイレ」が設置された。

・防災知識向上のためのレクリエーションの企画

※「さくらピア防災カード」を制作。第３回避難所体験で配布した。

※第４回避難所体験で「防災なるほどクイズ」を実施。

・法人等バリアフリー機能のある施設との、障害者受入れ体制への連携

※豊橋市が実施。

・他の福祉避難所との連絡体制の整備、検討委員会の設立

・関係機関（防災ＶＣの会等）との情報交換、合同学習会の開催

昨年に引き続き、防災ＶＣの会の方々には防災グッズ紹介、大型紙芝居、障害者介助、会場設営等、大いに貢献していただいた。

・次回避難所体験への準備

災害対策本部設置実習を予定。障害者ならば援助ニーズ、ボランティアならば個々の技術やできる仕事、それらの提示を踏まえた上で、避難所運営者によるコーディネート等の練習ができるとよい。

・避難所用物品の充実

例えば、屋上プール水を汲むためのバケツの配備等。

・災害時要援護者支援制度についての理解促進と普及

登録条件（一人暮らし等）緩和の検討も必要。

・福祉事業所防災ネットワークの設立

避難所体験に参加いただけなかった、各障害者福祉施設への周知も兼ねたい。

・豊橋市福祉政策課、防災危機管理課の避難所体験への参加

障害者防災の特性を、豊橋市と共に考えていきたい。

・宿泊体験等における看護師等医療従事者の配置場所の再考

今回は別室待機だったが、参加者と同じ体育館も考えられる。

・宿泊体験等における夜間巡視体制の確立

通常開館時の巡視だけでは十分な管理ができないので、検討が必要。

・不審者侵入時の対応物品（さすまた等）

・「避難所用物品保管庫」の充実、活用

避難所要物品保管庫が指定管理以前から事務室に保管されている。中身はろうそく２本、ランプ１個、パトライト１個だけなので、災害対策本部の確認を得たい。

●終わりに●

大災害が起こった時、利用者のために会館職員ができることはわずかである。

今回の避難所体験が、障害者や関係者各自が主体的に模索することを通じて、受け身になりがちな防災対策に関して何かひとつでも気づき、備える、そのきっかけになれば幸いである。

▼豊橋市の指定避難所について▼

指定避難所とは、災害により被害を受け自宅等を失い居住できなくなった時、または被害発生の恐れのある場合に、一時的に避難する場所です。市があらかじめ指定しており、有事には市職員が配備されます。

避難所は校区で指定されたものではありません。避難が必要となった際には、最寄りの避難所を利用することをおすすめします。

豊橋市では、指定避難所を次のように分類しています。

第一指定避難所……７０か所

各地区市民館・校区市民館が該当します。
全ての第一指定避難所には、標高を明示した看板が設置されています。

第二指定避難所……９０か所

各小学校・中学校・高等学校等が該当します。
第一指定避難所が収容能力を超えた場合等に開設されます。
（大規模な災害が発生した場合等は、第一、第二指定避難所が同時開設されます）

福 祉 避 難 所……　９か所

指定避難所での避難生活が困難な被災者がいる場合に開設されます。
以下の９か所の施設が該当します。

施　設　名	収容人員
豊橋市障害者福祉会館（さくらピア）	２１９人
豊橋市総合福祉センター（あいトピア）	１４７人
石巻老人福祉センター	３０人
下地老人福祉センター	３０人
大岩老人福祉センター	３５人
つつじが丘地域福祉センター	１０１人
大清水地域福祉センター	７４人
八町地域福祉センター	５９人
牟呂地域福祉センター	８７人

詳細は、豊橋市発行「防災のてびき」をご参照ください。

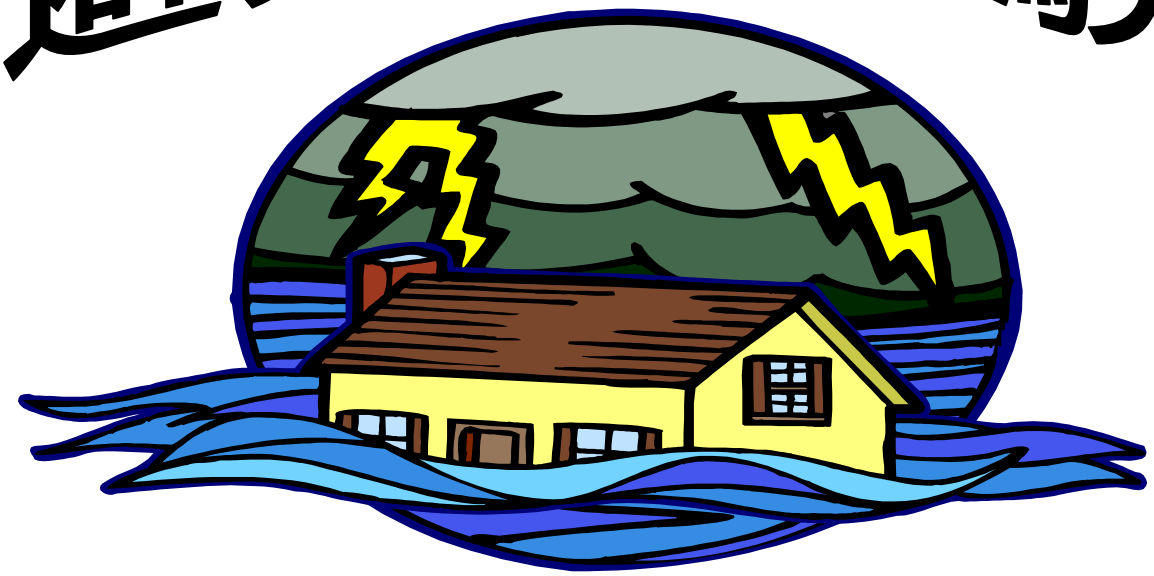
当日配布資料

体験しよう備えよう

障害者の防災を考える集い

第３回

さくらピア
避難所体験



と　き：２０１１年
９月１７日(土) １８日(日)

ところ：さくらピア

主催：豊橋障害者(児)団体連合協議会
共催：豊橋市
後援：豊橋市社会福祉協議会
協力：豊橋市中消防署
豊橋創造大学保健医療学部看護学科生
豊橋防災ボランティアコーディネーターの会

◆スケジュール◆

１７日

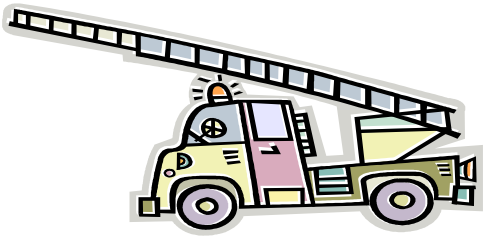
＜第１部　応急手当講習と訓練＞

①１３：３０～１４：４５　　応急手当講習「三角巾の使い方」

講師：清水勝之（さくらピア職員）　協力：豊橋創造大学看護学科

②１５：００～１６：４５　防災訓練　（体育館から桜ヶ丘公園へ）

体育館にて、豊橋市中消防署からお話を聞きます。その後、訓練放送が流れるので、指示にしたがって速やかに桜ヶ丘公園へ避難してください。今回は、消防はしご車が登場します！



＜第２部　体育館での集い＞

①１９：００～１９：４０　南三陸町視察報告

講師：本田栄子（さくらピア事務長）

８月末、現地でお聞きした被災者の生の声と、障害者の様子についてお話しします。

②１９：４０～２０：３０　障害者の防災を考える（夜の話し合い）

今回は、障害当事者が望む福祉避難所での「配慮」について、その内容を具体的に考えます。

＜第３部　宿泊体験＞

①２１：００～　７：００　体育館宿泊体験

さくらピアの体育館に宿泊します。さくらピアの福祉避難所としての機能をチェックし、避難所生活に必要な備えを考えてみてください。

１８日

②　７：００～　７：３０　水汲み訓練

４階屋上プールの水を、バケツリレーで１階トイレまで運びます。

③　７：３０～　８：３０　非常食試食

非常食を試食します。今回は参加者の食事班の人が作ります。

＜第４部　まとめの話＞

①　９：３０～１１：００　まとめの話

避難所体験に参加して気づいたこと、感じたことを発表しましょう。

ゲストアドバイザー　氏原祥元 氏（豊橋市福祉政策課長）

岡田伸一 氏（豊橋市障害福祉課補佐）

松井晴男 氏（豊橋市社会福祉協議会事務局長）

※表紙のみ

いざという時に役立つ

三角巾の使い方

講師：清水勝之（さくらピア職員）

協力：豊橋創造大学保健医療学部看護学科生

そのとき　私たちは　どう動くのか？

「南三陸町視察報告」

報告者：本田栄子（さくらピア事務長）

①私が見た　南三陸町

②そのとき、どう動くか…　障害者の避難誘導　どこで被災するかを考えて

③ＪＤＦ（日本障害フォーラム）の活動から見えてきたもの　混乱の中では伝わらない

④平常時にこそ取り組みを確認し　よりよい仕組みを作っていこう

いつものお付き合いが、
避難所での適切な判断につながりました。

南三陸町防災庁舎

ボランティアと連携して

▼「配慮」について、具体的に示そう▼

豊橋市では「避難所運営マニュアル」が作成されています。そこには下記のように、災害時要援護者への配慮について記してあります。

１８　災害時要援護者の支援　（衛生班、名簿班）

（１）　衛生班は名簿班と協力し、災害時要援護者の人数などを把握する。

（２）　避難所での生活は一般の避難者以上の負担を受けるので、環境の良い場所に受入れられるよう、できるだけの配慮を行う。避難者の協力も得るものとする。

（３）　避難者の障害の程度や体力・症状などを判断し、避難所での生活が困難な人については適切な施設に移動できるようにする。

（４）　災害時要援護者をケアするため、災害対策本部に当該職員の派遣要請を行う。

（５）　視覚障害者・聴覚障害者については、情報伝達手段の確保について配慮する。

ここで「配慮」という言葉が使われていますが、その具体的な内容については触れられていません。

今回の「夜の話し合い」では、避難所で必要な「配慮」をテーマに、障害種別ごとのグループで考えてみましょう。５つ出せたら、その中で優先順位をつけてみてください。

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（　　）

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（　　）

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（　　）

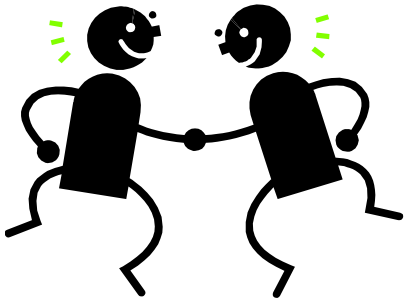
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（　　）

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（　　）

障害者への「配慮」を　みんなに知ってもらうためには
どうしたら　いいでしょうか？　いっしょに考えましょう。

▼「宿泊体験」参加者の方へ▼

みなさんに気持ちよく安全に体験していただくために、ご協力ください。



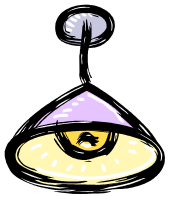
①夕食は、各自で済ませておいてください。

②寝袋、毛布等は、できるだけ持参してください。

③常備薬等を準備しておいてください。

④懐中電燈等、必要なものは持参してください。

⑤明日の朝食は、非常食（ご飯）と味噌汁です。食べられない方は、各自で代わりのものを持参してきてください。



⑥体調管理をしっかりして、無理のないようにしてください。

⑦途中で帰る場合は、必ず事務室に声をかけてください。

⑧不都合が発生した時は、速やかに事務室までご報告ください。

⑨手助けが必要な方がいる場合は、できるだけ参加者同士で、声を掛け合って協力してください。

スケジュール

17日

２０：３０	……	「夜の話し合い」終了
２１：００	……	就寝準備
２２：００	……	消灯

18日

６：３０	……	起床
７：００	……	朝食準備
		トイレ水汲み訓練
７：３０	……	非常食試食
８：３０	……	体育館清掃
９：００	……	受付（３階大会議室）
９：３０	……	まとめの話
１１：００	……	終了・解散

▼さくらピア避難所体験について▼

本日は　さくらピア避難所体験に

ご参加いただき　ありがとうございます

２０１１年３月１１日の東日本大震災から　６カ月が過ぎました

犠牲者の方のご冥福と被災地の復興をお祈り申し上げます

もしも　この地域で災害がおこったとき

豊橋市の障害者のみなさんが　大切な命を守れるように　…

避難所生活を　みんなと協力し合って過ごせるように　…

孤独にならないように　希望を失ってしまわないように　…

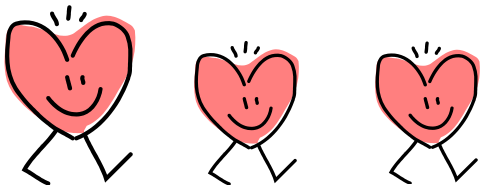
そんなことを　願いながら　さくらピア避難所体験を　企画しています

今回　「さくらピア防災カード」を制作したので　ぜひ活用してください

障害者の災害時の対策を

みんなで　考え　そして行動し

住んでいる人から　住んでいる人へと　伝えていきましょう



さくらピア事務長　本田栄子

さくらピア防災カード

さくらピア利用者手帳

T・S・H 年 月 日生		歳
		男・女
ふりがな		血液型
氏 名		型 RH

記入日 年 月 日

住所	豊橋市
電話・FAX	
障害種別	身体（ 種 級）・療育（ ）・精神
	障害内容：

①病名や部位・症状など

②服用薬・医療ケア・アレルギーなど

服用薬

その他

③主治医氏名：	
医療機関	
所在地	
電話	
④保険証	
種別：	番号：
⑤家族・緊急連絡先	
氏名	関係
電話・FAX	
氏名	関係
電話・FAX	
⑥災害時避難場所	
第１	
第２	
⑦福祉サービス・施設・学校等	
名称	
電話・FAX	

⑧避難誘導時に気をつけてほしいこと

⑨避難所で配慮してほしいこと

⑩その他

① ② 自分で準備するもの

- □ □ 障害者手帳
- □ □ 健康保険証
- □ □ 現金（小銭）
- □ □ 通帳・印鑑
- □ □ 常備薬
- □ □ 舗装具（補聴器・杖など）
- □ □ 筆記用具（点字器など）
- □ □ 衣類・下着・防寒着
- □ □ 運動靴
- □ □ 帽子・ヘルメット・防災頭巾
- □ □ マスク
- □ □ 懐中電灯・ランタン
- □ □ 乾電池（交換用）
- □ □ 笛
- □ □ 携帯電話
- □ □ 腕時計
- □ □ 手袋
- □ □ タオル
- □ □
- □ □
- □ □

①⇒自分が必要と思うものに ☑
②⇒準備をしたら ☑

① ② 家族で準備するもの

- □ □ 食料品（３日分）
- □ □ 水（１人 １日２ℓ×３日分）
- □ □ ろうそく・ライター・マッチ
- □ □ 缶切り・ナイフ
- □ □ 雨具
- □ □ ティッシュ
- □ □ 携帯ラジオ
- □ □ 救急用品
- □ □ 住所録
- □ □ 紙おむつ・ウエットティッシュ
- □ □ ラップ・ビニール袋
- □ □ 古新聞紙
- □ □ 消火器
- □ □ ロープ
- □ □ ビニールシート
- □ □ 毛布・ブランケット
- □ □ 折りたたみバケツ・水筒
- □ □ 目薬・うがい薬
- □ □ 携帯トイレ・脱臭剤
- □ □ 生理用品
- □ □ ゴミ袋
- □ □ 紙コップ・紙皿・割り箸
- □ □ 鍋・携帯コンロ

さくらピア 行事出席表

9/17(土),18(日) さくらピア 避難所体験	3/ ひなまつり
10/8(土) ゴスペル コンサート	4/ お花見
11/20(日) 豊障連・さくらピア 文化祭	5/ 530運動
12/18(日) もちつき会	6/ さくらピア サロン
2012/1/8(日) おしるこ会	7/ 七夕ライブ
2/17(金) 避難訓練	8/ 納涼 夏まつり

月別ごあいさつカード

2011 9	3
10	4
11	5
12	6
2012 1	7
2	8

第３回
さくらピア避難所体験

２０１１年９月１７日１８日

実　施　報　告　書

１７日	応急手当講習と訓練	…	１４２名
	体育館での集い	…	７４名
	宿　泊　体　験	…	２８名
１８日	ま と め の 話	…	３３名
		計	２７７名

▼参加者内訳▼

障害種別		17日			18日	合計
		講習・訓練	体育館での集い	宿泊体験	まとめの話	
障害者・家族	身体	33	10	4	4	51
	重身	1	2	2	1	6
	内部	1	1	1	1	4
	視覚	0	1	0	0	1
	聴覚	6	4	1	4	15
	知的	2	4	2	1	9
	精神	3	1	0	0	4
	家族	13	13	3	3	32
	小計	**59**	**36**	**13**	**14**	**122**
一般	介助	2	0	0	0	2
	施設	1	1	0	0	2
	ボラ	12	12	6	5	35
	大学生	9	0	0	0	9
	一般	2	2	1	1	6
	市職員	4	6	2	4	16
	市議	1	4	2	0	7
	社協	1	2	0	0	3
	その他	45	5	0	4	54
	さくらピア	6	6	4	5	21
	小計	**83**	**38**	**15**	**19**	**155**
合計		**142**	**74**	**28**	**33**	**277**

総参加者数２７７名、うち障害者１２２名で、両者とも昨年から増加した。項目別にも微増した一方で、宿泊体験は伸び悩んだ。避難所生活を想定した実践的な訓練として、宿泊体験の意義は大きい。今後いっそう、障害当事者からの積極的な参加が期待される。

幼児から高齢者までの幅広い年齢層から、各種の障害者やその家族、ボランティア等に参加していただいた。３回目となる今回の避難所体験で初めて、市職員、市議会議員の方々に宿泊体験に参加していただいた。

ほか、「応急手当講習」には大学生、「防災訓練」には民生委員、近隣住民、公園利用者、「夜の話し合い」には消防署員の参加・協力を得ることができた。避難所体験がきっかけとなった新たな地域交流といえる。

◆南三陸町視察報告◆

さくらピア事務長　本田栄子

東日本大震災から６か月が過ぎた。復興のニュースもたびたび聞かれるようになったが、湾岸部は、未だあちらこちらに瓦礫の山があり、仙台の街中とは全然違うと思った。

南三陸町の「のぞみ作業所」では、１７名の利用者のうち、１５名の命が助かった。施設長は「自分の誘導がもっと上手だったら、残りの２人も亡くならずに済んだかもしれない」と毎日感じるそうだ。私自身、さくらピアの管理責任者であり、有事には会館利用者の協力を得なければならない。だからこそ、さくらピア避難所体験への、障害者自身の参加を呼び掛けている。

のぞみ作業所の利用者は、避難所の志津川高校に避難した。そこでは、一般の方とは区別された、障害者専用の部屋に入ることができた。こうした対処は避難所マニュアルに記載されていないはずであり、社会福祉協議会や学校教職員の迅速な判断によるところが大きいのだろう。障害者対策として区分を設けなかった避難所では、それゆえに苦労やトラブルが続いたことも報告されている。

とはいえ、彼らのぞみ作業所の利用者たちにとって、志津川高校から家族への引き渡しまでもが順調に進んだ、というわけではなかった。その背景には、作業所が津波によって流され、日中的支援が期待できない状況下では、引き取ったところで家族も障害者自身も困ってしまう、という事情があったのだろう。また、後に新設された作業所がバリアフリーではないため、通所できなくなった車いす利用者もいたそうだ。

今回の視察での「気づき」を、順に述べたい。

- 灯りの重要性。非常時に備え、灯りを確保しておきたい。暗闇は不安を増長させるものであり、聴覚障害者にとっては、会話手段である「手話」が見えなくなってしまう。
- 連絡手段の確保。被災地では電話がつながりにくい状況にあった。各施設や団体、家族等への連絡手段として、電話番号のみならず、メールアドレスの登録等、代替手段を用意しておかなければならない。
- 必要な情報の選別。「情報が必要」とは言うものの、情報過多がかえって混乱を招く可能性は常に付きまとう。障害者や高齢者にとってはなおさら、「必要な支援を必要な人に」整理し配給する手立てが不可欠となる。
- 福祉避難所の具体化。被災地においても「福祉避難所」は、その名目だけが先行している状況なので、内容の具体化が早急に求められる。
- 同様の問題として、要援護者への「配慮」とは、何を指すのか。豊橋市避難所運営マニュアルに記載されている言葉だが、具体的な内容は見えてこない。「配慮」の必要性を身をもって感じている、障害当事者やその家族が積極的に関与する形で、自治会、行政等と連携していくことが期待される。

◆障害者の防災を考える（夜の話し合い）◆

～福祉避難所における「配慮」をめぐる具体案について～

身体障害者グループ

①障害種を示すプラカードを立てる。どういう障害を持った人なのか判別できるようにしておくと、情報交換等をはじめとした、障害者同士の交流が生じやすい。
②災害時の情報は、視覚障害者、聴覚障害者にも行き届くようにする。
③多目的トイレがあると便利。
④ストレスに弱い障害者には、個室を用意する必要がある。

車いす利用者グループ

①バリアフリーが第一。大きな段差があると、避難所に辿り着くことさえできない。
②車いすが余裕をもって動けるだけの広い通路の確保が必要。
③手すり付きのポータブルトイレがあるといい。
④障害特性を理解してほしい。脊椎障害では、大便をするのに 1 時間もかかってしまう。周りの方の理解がないと、長時間の使用はどうしても遠慮したい気持ちになる。
⑤簡易トイレの周囲をテントで囲ってもらえると、安心して使用できる。

聴覚障害者グループ

①配慮を得るためにも、地域住民との交流を通して、障害者の存在を知ってもらう必要がある。
②耳が聞こえる人には目障りかもしれないが、聴覚障害者の情報収集手段として、字幕付きのテレビ放送を放映してほしい。
③聴覚障害者には、アナウンスでは伝わらない。音声情報だけではなく、視覚情報が不可欠。
④補聴器や携帯電話は、聴覚障害者にとって必需品。そのために電池、充電機の確保が必要。
⑤発災直後は難しいと思うが、手話通訳者を付けてほしい。いる場合は、その周知を徹底してほしい。

食べ物アレルギーグループ

①提供される食料について、成分表示を怠らないでほしい。アレルギーのため、乾パン等が食べられない子もいる。重度の場合、死にいたる可能性も否定できない。
②炊き出し等の場合も、アレルギーを持つ方が安心して食べるためには、食材の提示が必要。
③アトピーや喘息のひどい子どもは、夜泣きすることが多く、大勢の人が集まる避難所の環境によっては症状が悪化する可能性もあるため、個室を与えてほしい。
④ボランティアの方々に、アレルギーの特性を勉強してもらえるとありがたい。

知的障害者グループ

①福祉避難所における基本的ルールが、避難者全員に周知されるよう、避難所内で分かりやすく提示される必要がある。

②知的障害者に個別の部屋を与えてほしい。パニックや奇声を発することで迷惑をかけることになれば、お互いにつらい思いをしてしまう。その防止策としての区別であり、わがままではないことを理解してほしい。

③異性介護に対する理解が必要。例えば、自衛隊が提供するお風呂は男湯と女湯に分かれているが、そのような場合、異性介護者はどうすればいいのか。

④東日本大震災の被災者のうち、自宅待機の方には救援物資が届かないと聞いた。避難所に来ることができない人にも、救援物資や災害情報が行き届くようにしてほしい。

⑤洋式トイレが必要。

⑥障害児の状態によっては目を離せない場合があるので、見守りボランティア等がいてほしい。

防災ボランティアグループ

①外見からでは判断できない障害を持つ人のために、障害者であることを示すワッペン等を用意する。

②「ＳＯＳカード」のようなものを用意する。必要な時に掲げることで、声を上げづらい状況でも、助けを求めることができる。

③障害別に場所を確保してほしい。

④ピアカウンセラー等、障害者の相談役となる専門スタッフがいてほしい。ボランティアに障害者福祉を理解してもらうことも必要。

⑤障害によっては、床からでは起き上がることができない人もいるので、簡易ベッドが必要。体圧分散マットのようなものもあるとよい。

⑥移動に難のある方に対しては、トイレに近い場所を確保してほしい。

⑦車いすは故障の可能性があるため、避難所に数台は保管しておいてほしい。

さくらピア避難所体験「夜の話し合い」を終えて

豊橋防災ＶＣの会　尾崎公枝

今年８月、陸前高田市にボランティアに行きました。さくらピア避難所体験を経験したこともあって、被災地では障害者のことをいつも考えていました。

防災対策以前に大切なことは、一人一人が、自ら「自分を守ろう」という意識を強く持つことだと思います。障害を持つ方々には、障害によって生じるさまざまな困難に対応していくためにも、一般の方以上に防災意識を高く持っていただきたいと思っています。

私たち防災ＶＣの会は、役立つ情報が見つかればどんどん発信していきますが、また逆にみなさんの要望を伺いながら、貴重な意見を防災ボランティア活動に反映していきたいと考えています。今後とも、よろしくお願いいたします。

◆「宿泊体験」参加者アンケートより◆

宿泊体験に参加して、何か感じたことがあれば、教えてください。

- ちょっとした物音でも、よく聞こえました。
- 人の気配が気になり、なかなか寝付けませんでした。
- 不慣れな場所での宿泊だった上に、いろいろな音も気になってしまい、体力的に大変でした。耳栓を持ってくればよかったと後悔しました。
- クーラーの風音がうるさくて、なかなか眠れませんでした。消灯後は、クーラーを切った方がいいと思います。
- 初参加でしたが、息子のことばかり考えて、自分の着替えを忘れてしまいました。息子は脳性まひでコミュニケーションに難があるので、顔の表情から健康状態等を推察する必要があり、夜でも灯りが欠かせません。しかし体育館での点灯は周囲の迷惑となるので、トレーニング室を個室として利用させてもらいました。
- ３歳の娘が興奮して寝付かず、歩き回って迷惑をかけてしまいました。訓練だからまだいいとしても、仮に本番があるとして、しっかり対処できる自信はないです。
- さくらピアの体育館は冷暖房が備わっているため、停電しないかぎり、他の避難所よりも快適に過ごすことができると思いました。
- 体育館での通路箇所、スリッパの履き替えの案内等が分かりにくかったです。
- 障害者の参加が少なく、残念でした。

福祉避難所として、さくらピアにどんな設備があるといいと思いますか？

- 情報伝達掲示板があると、聴覚障害者にとっても便利だと思います。
- 車いす利用者が移動しやすい、広めの玄関だといいと思いました。
- ダンボールで十分なので、間仕切りがあると安心できます。
- 冬場は冷え込みが厳しいので、布団が欠かせないと思います。
- 肩が凝ってなかなか寝付けなかったので、枕を用意しておいてほしいです。
- 授乳コーナー、おむつ代えコーナーがほしいです。
- 子どもが長時間、しかも何度もトイレを使います。他の方の迷惑にもなるので、トイレの数がもっと多ければ気兼ねなく使用できると思います。
- 障害児の息子は普段、ミキサー食を摂取しています。今回は思いきって非常食（ご飯と味噌汁）にチャレンジしましたが、結局食べられたのは里芋だけで、ご飯は軟らかめに作ったにもかかわらずむせてしまい、味噌汁の汁は胃ろうから注入しました。これらの非常食もミキサーで調整すれば摂取できるのですが、とろみの付いた非常食、といったものがあれば、その手間が省けて助かります。

宿泊体験参加者内訳

- 障害者　１０名（身体、重度身体、内部、聴覚、知的）　　・家族　３名
- その他　１５名（ボランティア、一般、市役所職員、市議会議員等）

計　２８名（初参加１５名）

◆「まとめの話」より◆

<u>参加者の意見</u>

- 福祉避難所のみならず、すべての避難所に、要援護者への具体的な支援体制を整えてもらいたい。同時に、避難所運営者は、入所者の障害特性の理解に努める必要があると感じている。
- 災害時要援護者支援においては、当事者の障害特性等が把握されている必要があるが、個人情報保護の観点から難しいと聞いている。障害者と支援者のスムーズな連携を図るためにも、改善していただきたい。
- 知的障害者の場合は、一人暮らしではなくても、災害時要援護者支援制度の対象としてほしい。
- 指揮者がしっかりしていなければ、実際の避難や避難所生活で混乱が生じてしまう。そのためにも、福祉避難所の開設担当者には繰り返しの訓練、研修が必要だと思う。
- 緊急時において迅速な対応を望むためにも、障害特性等を一覧できるものを、各自が用意しておく必要がある。自宅には「緊急医療情報キット」を備え、外出時には「さくらピア防災カード」を携帯する、という方法が一例としてあげられる。
- 「夜の話し合い」では、障害別に様々な意見が提出されたが、アレルギーへの配慮も欠かせないことに気付かされた。健常者、障害者という単純な区分だけで満足することなく、その境界に位置する方の存在も忘れてはいけないと感じた。
- 「夜の話し合い」にも出された意見だが、聴覚障害者として、字幕付きテレビ放送、視覚情報、手話ができる人の存在が避難所には欠かせないと再認識した。
- 私は難聴者で、避難所体験では、他の参加者の後ろを付いて回ることが多かった。今何をするのか、情報収集が難しいからであって、その克服のために補聴器がある。しかし、南三陸町視察報告でのビデオには、周囲から「補聴器のハウリング音がうるさい」と言われ、食事の時間以外はずっと外にいる、という聴覚障害者の話があった。同じ聴覚障害者として、本当に悲しい気持ちになった。
- 避難所体験中も口を使って会話していたため、今にいたるまで、その人が聴覚障害者だとは気付かなかった。ある人が障害者であるかどうか、外見だけで判断してはいけないと感じた。
- 聴覚障害者に対しては、筆談や、多少聞こえる方には会話をして、ボランティアとしてできるだけフォローした。見た目では分からない障害の場合は、障害名を記したゼッケンを付ける等、自分の障害をアピールすることが大切だと思う。避難所生活を総じて考えてみても、障害者からの積極的なコミュニケーションが求められることになる。
- 今後も多数の方に、宿泊体験をはじめとした避難所体験にボランティアとして参加していただき、「自分には何ができるのか」を考えるきっかけにしてもらいたい。

＜講評要約＞

豊橋市福祉政策課長　氏原祥元 氏

東日本大震災からの教訓として、豊橋市も災害時要援護者対策に重点を置いている。避難所開設訓練、小学校での避難所体験実施のほか、今年６月には、豊橋市と９つの民間福祉法人との間で「災害時における要援護者の受け入れに関する協定」を結んだ。もちろん、それだけで終わることなく、例えば避難所への要援護者移送方法の確定、各地域の特色の把握等を経て、福祉避難所の体制を整えていかなければならないと考えている。豊橋市には第一、第二合わせて約１６０か所の指定避難所があり、有事においては市職員４００名ほどの動員が見通される。最寄りの避難所をご存じない方が多いため、今後のためにも、「さくらピア防災カード」に記入しておいてほしい。防災対策も避難所運営も、行政と関係機関が市民と手を携えていくことで充実していく。本日のように、障害当事者の意見を少しでも多く、市へ提出していただきたい。

豊橋市障害福祉課長　井口健二 氏

災害時要援護者支援制度の登録条件「一人暮らし」に関して、例えば介護者の外出時は「日中独居」に当てはまるので、申請できる。今後は、障害特性に応じた制度への改変が求められる。該当する方は、今ある制度を上手に利用してほしい。また、記入欄等の追加要望や改善点があれば、どんどん伝えてもらいたい。障害者からの積極的なアピールを期待している。

豊橋市障害福祉課補佐　岡田伸一 氏

みなさんが言われたように、体験としての１日かぎりの避難所生活は我慢できるが、いつ終わるか分からない実際の避難所生活は苦しい。それへの備えとして、平常時からの防災準備が大切と言える。避難所体験に参加された方々には、一人一人の障害特性と、必要とする配慮を「さくらピア防災カード」に記入してもらいたい。同様の試みとして、豊橋市では「救急医療情報キット」を配給している。障害者の方には、こちらもぜひ活用していただきたい。

豊障連会長　前田宣雄 氏

東日本大震災についての報道から、避難時の様子がだんだん明らかになってきた。多数の命が奪われた悲劇の学校。逆に、ひとりの犠牲者もなかった奇跡の学校。明暗を分けたものは何だったのか。障害者の場合は、夜の話し合いでの意見にあったように、「一般の方より防災意識を高く持つこと」がその大事な一歩だと考えている。そして、今回参加して気づいたことを、行政に反映してもらう必要がある。そのためにも、われわれ当事者が自主的に訓練へ参加し、また各自の参加を促して、「障害者の防災意識」を高めていくようにしたい。

▼考　察▼

避難所体験企画責任者
事務長　本田栄子

●応急手当講習と訓練●

応急手当講習では、創造大学看護学科の学生９名のサポートを得た。防災活動を通した「地域とのつながり」として、いい方法だと思う。「三角巾の使い方」をテーマとしたが、習得には繰り返しの訓練を要する。今後は、理解に時間がかかる高齢者等への指導法等の工夫が必要となる。

今回の避難訓練では、１階体育館から避難した（昨年までは３階大会議室から）。そのため公園までの距離は短かったが、それでも避難完了には時間がかかった。また、布担架、イーバックチェア（階段降機）を用いて、非常階段からの移動練習も行った。イーバックチェアについては職員が事前練習を重ねて臨んだが、職員にかぎらず、会館利用者にも使い方を覚えてもらえるといい。

避難完了後、消防はしご車による、３階ベランダからの要援護者救出訓練を実施した。消防車が来ると、近隣住民の見学も多くなり、行事のアピールとして効果的だった。

●障害者の防災を考える（夜の話し合い）●

最初に、ビデオ「障害者の防災」を鑑賞した。その後パワーポイントで南三陸町の写真を交えながら、事務長本田より視察報告を行った。

今回は、避難所マニュアルに記載されている「配慮」という言葉の具体的な内容、その要望を議題とした。例年同様、障害種別ごとにグループを構成し、「配慮」の事例を優先順位を付けて５つほど上げてもらった。「アレルギーで乾パンが食べられない子もいる、食材を提示してほしい」、「トイレに近い場所を確保してほしい」等、当事者ならではの声を聞くことができた。市職員、市議会議員にも参加していただいた。

※Ｐ６２～６３参照

●体育館宿泊体験・非常食試食●

参加者の半数ほどが初参加だった。肢体障害、知的障害、呼吸器障害、難聴者、胃ろう使用者、幼児等、様々な顔ぶれだった。参加者アンケートでは「子どもの意思確認のため灯りが必要」、「クーラー音がうるさくて寝られなかった」等の意見が寄せられた。重度障害者にとって、照明や冷暖房の有無は生死に直結する問題であるとの認識を広めていきたい。

非常食の準備は、大方参加者にお任せした。ただ、前日のうちに段取り等の打合せを行う必要があったと反省している。プラスチックのスプーンを噛んで割ってしまった方がいたこと、発電機１台が故障していたこと、体操用マット（敷布団の代わり）の数量確認、シャワーの使用確認の必要だったこと等、今回も「気づき」がたくさんあった。宿泊体験の企画実行は、その準備にも時間がかかり大変なものだが、それに見合うだけの大きな収穫があるといえる。

※Ｐ６４参照

●まとめの話●

参加者、講評者から貴重な意見を聞くことができた。「参加者同士でお互いの障害が分からなかった」ことが印象に残った。また、重度障害児の保護者は「子どもに気を回しすぎて、自分の着替えを忘れた」という。当事者家族の大変さを感じた。

※Ｐ６５～６６参照

●避難所体験実施後の対応●

東日本大震災直後の現地障害者の様子を、さくらピア避難所体験にからめて、ＤＶＤを制作した。（約１２分、制作：Studio AYA）

●課題と今後に向けて●

・さくらピア防災カードの活用

昨年度避難所体験で、神戸市手をつなぐ育成会から紹介していただいた資料（なだびと・さぽーと手帳）をヒントに、「さくらピア防災カード」を制作した。利用者各自がそれぞれの障害特性等を記入し携帯することで、防災対策にもなり、防災意識の向上にもつながる。今後、さくらピアでの各イベントを通じて活用していけるといい。

・関係者への呼びかけ

民生委員の参加者数が前回から減少した（前回１２名、今回２名）。チラシ・ポスターによる告知だけでは不十分なので、直接の電話連絡等も含めて、関係機関との連携を図りたい。

・防災コミュニティの推進

豊橋市発行「防災のてびき」には「防災コミュニティの推進」と題して、*「様々な分野の地域住民や事業所、行政などが協力し合って、災害に強いまちづくり・人づくりを目指し、防災活動に取り組む」*と記載されている。この方針を具現化したものとして、さくらピア避難所体験を捉えたい。

防災報告・対策集は、それを読む人が少なく、市民一人一人と学識者の認識の間には大きな隔たりがある。したがって、要援護者対策を机上の空論に終わらせないためにも、「住んでいる人から住んでいる人へ」直接顔を合わせ伝えていくことが求められるのではないか。また、障害者自身が該当する避難所に赴き、実際の状況を自分の目で確かめるといった「積極的な姿勢」が期待される。今後は、校区自主防災会、学校等とも連携して、避難所マニュアルや設備の確認、情報交換等、活動の幅を広げていきたいと思う。

●おわりに●

東日本大震災で被災された全ての方に、お見舞い申し上げます。

当日配布資料

体験しよう　備えよう
障害者の防災を考える集い

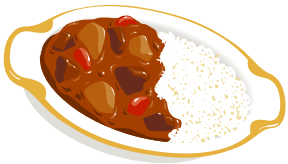
第４回

さくらピア
避難所体験

と　き：２０１２年９月２９日(土)～３０日(日)

ところ：さくらピア、桜ヶ丘公園

２９日(土)



①防災交流会

- 自衛隊講演「災害救助最前線」
- 大災害！！その時役立つ知恵袋
- 防災なるほどクイズ
- カレーライス炊き出し体験

②夜の防災訓練

- 防災講話　・避難訓練　・消火訓練

③宿泊体験

３０日(日)　　非常食試食　④まとめと講評

主催：豊橋障害者(児)団体連合協議会
共催：豊橋市　　後援：豊橋市社会福祉協議会、豊橋善意銀行
協力：豊橋市中消防署、豊橋防災ボランティアコーディネーターの会
　　自衛隊豊橋地域事務所

◆スケジュール◆

２９日（土）

＜第一部　防災交流会＞　１階ロビー・体育館

・１３：００　受付で、ハイゼックス米を袋詰めします。
・１３：３０　会長あいさつ　山下徹（豊橋障害者(児)団体連合協議会会長）
・１３：４０　自衛隊講演「災害救助最前線」
　講師：鬼頭広正 氏（自衛隊豊橋地域事務所所長）
　　門脇正充 氏（自衛隊豊橋地域事務所広報官）
　①自衛隊について　②災害派遣のしくみ
　③東日本大震災での活動状況
・１４：４０　休憩
・１４：５５　大災害！！その時役立つ知恵袋
　講師：尾崎公枝 氏（豊橋防災ボランティアコーディネーターの会）
・１５：２５　防災なるほどクイズ
・１６：００　カレーライス炊き出し体験

＜第二部　夜の防災訓練＞　３階大会議室→桜ヶ丘公園

・１８：００　受付
・１８：３０　来賓あいさつ　内藤公久 氏（豊橋善意銀行常務理事）
・１８：３５　防災講話　講師：金子久夫 氏（豊橋市中消防署主査）
・１８：５５　避難訓練（さくらピア→桜ヶ丘公園）
・１９：２０　消火訓練　消火器の使い方を学びます。

＜第三部　宿泊体験と非常食試食＞　１階体育館

・２０：３０　受付、宿泊表記入
・２１：００　体育館宿泊体験
　実際に体育館に宿泊して、避難所生活を考えてみましょう。
・２２：００　消灯

３０日（日）

・　７：００　健康チェック
・　７：３０　非常食試食（２階図書談話室）　梅粥、味噌汁を試食します。
・　８：３０　館内清掃・後片付け

＜第四部　まとめと講評＞　３階大会議室

・　９：００　受付
・　９：３０　まとめと講評
　講評者：西尾康嗣 氏（豊橋市障害福祉課長）
　　木村昌弘 氏（豊橋市福祉政策課長）
　　松井晴男 氏（豊橋市社会福祉協議会事務局長）

▼さくらピア避難所体験　これまでの経過▼

第１回　２００９年9月１９日（土）～２０日（日）　参加総数１８０名

第１部

防災訓練

豊橋市中消防署による防災講話の後、避難訓練開始。２階図書談話室からの出火を想定し、３階大会議室から桜ケ丘公園へ移動。参加者全員の避難完了に約２０分を要し、高齢者や車いすの方の避難に大きな不安要素があることを実感した。併せて地震体験車の試乗と初期消火訓練を実施。「火事では、煙を避けて風上へと逃げるのが大事」といわれるが、自力で逃げられない人たちもいる。

講演「こどもはダウン症、母は耳が聞こえない」

２００２年東海豪雨での被災・避難所体験講演。夜は相手の口元が見えず苦労したこと、体育館では子どもが行方不明になり、自分は放送が聞こえず、大変だった。

防災設備確認ラリー

館内の非常口、消火栓、消火器のありかを探し、会館利用者に防災設備の場所を確認してもらった。

第２部

防災グッズ紹介

防災ＶＣの会による、リサイクルグッズの紹介・説明。

障害者の防災を考える（夜の話し合い）

避難所までの移動手段がない、トイレの確保が心配、情報が入手できない等、不安の声がたくさん聞かれた。

第３部

体育館宿泊体験・非常食試食

宿泊体験では職員、豊障連役員、ボランティア等を配置。非常食試食では，包装内の乾燥材を抜き忘れた方がいたことや、障害者には袋が開けづらいこと等が分かった。Ｍｙ食器の必要性や、朝食の準備等を当事者同士で行うための役割分担の大切さを実感した。

第４部

まとめの話

避難所体験に参加した感想を述べてもらい、市職員、社協職員から講評をいただいた。「福祉避難所」といっても名前だけで、具体的内容はまだ何も決まっていない。

第２回　２０１０年9月１８日（土）～１９（日）　参加総数２４０名

第１部　講演・防災訓練

講演「阪神・淡路大震災、その時、知的障害者たちは…」

障害児を持つ家族が避難所である養護学校へ行くと、近隣住民でいっぱいで入れなかった。知的障害児を持つ３家族に保健室が提供されると一般から苦情が出て、２家族増えることになったが、結局気まずくなってしまった。安否確認は、行政機関より所属団体が行うほうが確実だった。

防災訓練

昨年同様、避難訓練は２階図書談話室からの出火を想定し、３階大会議室から桜ヶ丘公園へ避難。地震体験車の試乗、初期消火訓練を併せ、消防設備保守契約業者にも参加していただいた。

第２部　集い

防災グッズ紹介

昨年同様、防災ＶＣの会による防災グッズの紹介。今回紹介していただいたイーバックチェア（階段降機）は、後に購入。第３回避難所体験で使用した。

障害者の防災を考える（夜の話し合い）

議題を以下の３つに分けて実施した。

①自分や家族でできること

- 家族だけの集合場所を決めておく
- 自己紹介できるものを用意しておく
- 要援護者登録をしておく
- 担当の民生委員を把握しておく

②仲間や団体、近所でできること

- 日頃からの近所付き合いを大切にする
- 所属団体の連絡網を整理しておく

③行政に取り組んでほしいこと

- 要援護者用避難所を設けてほしい
- 防災関係者に障害特性を理解してほしい
- 避難所に行けない人にも物資支給してほしい
- 福祉勉強会を開催してほしい

第３部　宿泊体験

体育館宿泊体験

宿泊体験では、クーラーを切った後に発作を起こした方がいた。尿瓶を持参された方もおり、排泄介助等の場所を明確にする必要がある。不特定多数の人が出入りする避難所では、不審者の侵入や知的障害者の無断外出による事故等が懸念される。今後は、避難所としての安全管理体制の強化が望まれる。

第４部　まとめの話

第３回　２０１１年9月１７日（土）～１８日（日）　参加総数２８０名

先立って「さくらピア防災カード」を作成し、資料と併せて配布した。

第１部　応急手当講習と訓練

応急手当講習「三角巾の使い方」

防災交流として、豊橋創造大学学生９名のサポートを得た。

防災訓練

１階体育館から桜ヶ丘公園への避難だったが、それでも時間がかかった。布担架とイーバックチェアの使用、消防はしご車による３階ベランダ待機中の要援護者救出訓練も実施した。

第２部　体育館での集い

南三陸町視察報告

避難所で専用の部屋が与えられた障害者は、一般の方との同室によるトラブルを避けることができた。非常灯の所持、連絡網把握の重要性。「必要な情報を必要な人に」。情報過多でも弊害が生じてしまう。

障害者の防災を考える（夜の話し合い）

避難所マニュアルに記載されている「配慮」について、具体的な内容を考えた。

＜身体障害＞　・プラカード等での障害種別の開示　・多目的トイレの設置
＜車 い す＞　・バリアフリー化（段差解消、広い通路）　・簡易トイレの設置
＜聴覚障害＞　・情報の視覚化　・電池、充電器の確保（携帯、補聴器）
＜知的障害＞　・洋式トイレの確保　・見守りボランティアの配置
＜アレルギー＞・食品の成分開示　・アレルギー患者の存在周知
＜防災ボラ＞　・ＳＯＳカードの用意　・相談員の配置　・簡易ベッドの設置

第３部　宿泊体験

体育館宿泊体験・非常食試食

半数ほどが初参加で、胃ろう使用、呼吸器、難聴、知的等、様々な立場の方が参加された。クーラーの有無は、重度障害者にとって命に関わる問題である。実施後、体操用マットの数量確認、シャワーの使用確認等が必要だったことを反省した。また、非常食は参加者主体で準備してもらった。

第４部　まとめの話

▼「宿泊体験と非常食試食」参加者の方へ▼

宿泊体験では、災害時の避難所生活を疑似体験します。その中で、事前準備やサポート体制の必要性を発見し、今後の研究・改善へとつなげていきます。みなさんに気持ちよく安全に体験していただくため、ご協力をお願いします。

①夕食は、各自で済ませておいてください。（ただし、夜食を用意しています）
②寝袋、毛布等は、できるだけ持参してください。
③常備薬、懐中電灯等、必要なものは準備しておいてください。
④明日の朝食は、非常食（梅粥）と味噌汁です。食べられない方は、各自で代わりのものを持参してください。
⑤体調管理をしっかりして、無理のないようにしてください。
⑥途中帰宅する場合は、必ず事務所に声をかけてください。
⑦不都合が発生した時は、速やかに事務室までご報告ください。
⑧手助けが必要な方がいる場合は、できるだけ参加者同士で、声を掛け合って協力してください。

★出張理容室★

協力：浅倉育雄さん
北川昌宏さん
（聴覚障害の理容師）

※先着３名様に
カットサービス！

スケジュール

２９日

- ２０：３０　…　受付
- ２１：００　…　就寝準備
- ２２：００　…　消灯

３０日

- ６：３０　…　起床
- ７：００　…　健康チェック（看護師 浅原佳代さん）
- ７：３０　…　非常食試食
- ８：３０　…　体育館清掃・後片付け

❤さくらピア「ハートリュック」❤

昨年の「夜の話し合い」では、「外見だけでは障害が分からない」、「ＳＯＳのサインがうまく出せない」、「同じ地域の人が分からない」等の意見が出ました。

今回のさくらピア避難所体験では、氏名、障害種別、所属団体、町名、校区名等を分かりやすくアピールするために「さくらピアハートリュック」を用意しました（障害名などを書きにくい場合は、氏名や地域を書くだけでもけっこうです）。

ピンクのリュックを見て、さくらピアの避難所体験を通して「どこかでつながっている人だな」と、感じる時が来るかもしれません。そこで共通の話題が生まれ、地域の絆を結ぶことができるかもしれません。

ハートリュックが、そういった「連帯感」が生まれるきっかけとなれば幸いです。すでにご家庭で非常持ち出し袋を準備されている方は多いと思いますが、２つ目として、ぜひ活用してください。障害や個性によって、リュックの中身も人それぞれだと思います。

あなたは何を入れますか？　書いてみましょう

1．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

4．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

5．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

6．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

7．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

8．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

9．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

10．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

制作：さくらピア

ハートリュックでやさしい心をつなげよう

さくらピア避難所体験
職員役割分担

企画責任者	本田栄子
消防訓練	清水勝之
総務	清水里依子
〃	瀬戸直美
会館管理	溝口弘
〃	加藤祐治
〃	柴田吉幸
報告書作成	青木裕

第４回　　２０１２年9月２９日（土）～３０日（日）

さくらピア避難所体験

実　施　報　告　書

第一部　防災交流会……１２１名

第二部　夜の防災訓練……　８５名

第三部　宿泊体験・非常食試食……　４６名

第四部　まとめと講評……　４２名

計　２９４名

２０１２年９月３０日（日）

東愛知新聞

万一に備えて避難所体験

障害者と家族、福祉関係者ら

豊橋の「さくらピア」で

豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で29日、障害者と家族、地元福祉関係者、住民を対象にした1泊2日の避難所体験が始まった。豊橋障害者（児）団体連合協議会主催。30日まで。

障害者および高齢者の災害時の指定避難所である同館で避難生活を仮想体験してもらい、防災意識の啓発を促す。約90人が参加した。

初日は、自衛隊豊橋地域事務所所長の鬼頭広正氏と同広報官の門脇正充氏が、東日本大震災震災における活動状況などについて講話。「いざという時のために万全の準備を」と呼びかけた。

また、今年初の試みとして夜間の避難訓練も行った。停電時を再現、地下非常口を通って同館前の桜ヶ丘公園まで避難した。

障害者の災害時の避難について、西尾康嗣・市障害福祉課長は「逃げ遅れなど防ぐには危機意識を持つこと。各地域の自主防災会やボランティア、近隣住民の協力や連携が必要になってくる。日頃から近所同士でコミュニケーションをとって」と話す。

30日は体験を通しての総括・講評を行う予定。（千葉敬也）

講話を聞く参加者ら＝豊橋市障害者福祉会館さくらピアで

▼参加者内訳▼

障害種別		２９日			３０日	合計
		①防災交流会	②夜の防災訓練	③宿泊体験	④まとめと講評	
障害者・家族（当事者）	身体	17	14	8	8	47
	重身	1	1	1	1	4
	内部	0	1	1	2	4
	聴覚	14	13	6	1	34
	視覚	4	0	0	0	4
	精神	3	0	0	0	3
	知的	7	6	5	1	19
	発達	0	1	0	0	1
	家族	14	8	8	6	36
	小計	**60**	**44**	**29**	**19**	**152**
一般	介助	2	0	0	0	2
	ボラ	15	10	7	8	40
	一般	15	5	4	1	25
	市議	1	2	2	1	6
	民生	2	0	0	0	2
	社協	2	1	0	1	4
	市職員	8	7	0	3	18
	その他	10	8	1	5	24
	さくらピア	6	8	3	4	21
	小計	**61**	**41**	**17**	**23**	**142**
合計		**121**	**85**	**46**	**42**	**294**

総参加者数２９４名、障害当事者の割合は５１.７％で、ともに昨年（２７７名、４４％）から微増した。障害種別で見ると、聴覚（３４名）が昨年（１５名）の２倍以上であったのが顕著な変化といえる。身体（４７名）が最も多いこと、その他の参加比率等は昨年同様の傾向を示した。全体として、障害当事者は昨年（１２２名）から３０名増加した。

今回初めて避難訓練を夜に実施したので、単純に比較できないが、①～④全てにおいて障害当事者の参加比率が昨年から増加した。特に③宿泊体験は障害当事者２９名が参加し、昨年（１３名）から参加者、割合ともに大幅に増加した。また、「広報とよはし」やチラシを見て、初めてさくらピアを訪れた一般参加者が計２５名となり、こちらも昨年（６名）から増加した。「障害者の防災」という意識が、豊障連内だけでなく、市全域の障害者や一般市民に少しずつ広がってきていると感じる。今年で４回目を迎えたさくらピア避難所体験の、積み重ねの成果といえる。

◆自衛隊講演「災害救助最前線」◆

豊障連会長　山下徹

今回の講演では、普段あまり身近に感じることができない自衛隊の活動や、その使命等を知ることができて大変よかったかと思います。

自衛隊について「我が国、唯一の武力集団である」との言葉には、少しヒヤリとしましたが、「命をかけて国家・国民、愛する家族・恋人を守る仕事」と聞いて、安心しました。また、勤務地として陸上が１５８ヶ所、海上が３３ヶ所、航空が７１ヶ所、計２６２ヶ所と全国を網羅して国を守っていることが大変よく分かりました。自衛官のコースと階級の説明もあり、こちらも面白かったです。

災害派遣の仕組みについては、災害派遣の基準として「公共性の原則」「緊急性の原則」「非代替性の原則」の３原則があるようです。災害派遣時の活動内容は、偵察、情報収集・人命救助・捜索・生活支援と多岐に渡ります。

東日本大震災発生時は、わずか２分後の１４時４８分には指揮所が開設され、その１４分後の１５時０２分には偵察、情報収集のためにＦ－１５が離陸していたという話には驚くばかりでした。

東日本大震災での豊川駐屯地災害派遣活動については、迅速な対応や宮城県山元町での救援活動等が地元の方々に喜ばれました。３月１２日から５月２４日まで、約1,１００名の隊員の皆さんが使命感を持ち、その役割をほぼ手作業で遂行されたことには、本当に頭が下がる思いです。

いつ来るかもしれない私たちの町を襲う有事に備えること、皆さんで支え合う気持ちを忘れないことをあらためて思い出させてくれた講演でした。

◆「大災害！！その時役立つ知恵袋」◆

豊障連副会長　鈴木佐和子

防災ＶＣの会の防災グッズのお話は、毎回楽しみにしています。

最初に登場したのは、「おすすめの避難袋」。タオルやマスク、軍手、靴、笛、ライト等がコンパクトにまとめられて入っていました。特に靴に関しては、「脱げないものにしてください」とのアドバイスが。私はスリッパでもいいと思っていましたが、瓦礫の中を歩く時は、簡単に脱げてしまうものでは役に立たないんですね。そして、笛。助けを求める時、声を長時間出し続けることはできないので、笛や、子どもが持つ防犯ブザー等も役に立つということでした。

懐中電灯は、振るだけで充電できるものを紹介されました。手回し充電のものは私も持っているんですが、振るだけなら、片手がふさがっていても充電できるので便利ですね。発電機も、コンパクトで低価格なものがホームセンター等で取り扱われているそうです。

それから、外出先で帰宅困難になった時のためのセットも、車内や会社等に用意しておくといいそうです。歩きやすい靴やレジャーシート、トレーニングウエアや毛布等をひとまとめにしておきましょう。

そして、手作りの防災グッズ。百均の座布団２枚で作った防災頭巾や、家にある毛布で簡単に作られた防寒着。小物入れ袋をベストの裏に縫い付けた貴重品入れ。小型のドラム缶に２枚の板を乗せた簡易トイレ等…。お金をかけなくても作れるアイディアグッズばかりでした。

時間の関係で一部しか紹介されなかったのは残念でしたが、最後に「これはおススメです！」と紹介してくださったのは、棒状の持ち手が光る笛でした。これなら笛を吹いて助けを呼ぶだけでなく、夜も発見されやすいですね。

「自分の家の防災用品も見直さなければ」と、あらためて思いました。

防災なるほどクイズ　問題

第１問　火災時における、ビニール袋の正しい使い方は？
（１）膨らませて、防災ずきんの代わりに使う
（２）水を入れて火元に投げつけ、火を消す
（３）頭からかぶり、煙を吸わないようにする

第２問　地震が起きた時に、もっとも倒れやすい家具は？
（１）本　棚　（２）タンス　（３）食器棚

第３問　地震等の大きな災害時には電話が通じなくなります。このとき、別の場所の人と連絡をとるための「災害用伝言ダイヤル」の番号は？
（１）１１７　（２）１７１　（３）１７７

第４問　エレベーター乗車時に地震が発生した場合、もっとも適切な行動は？
（１）１階のボタンを押す　（２）そのままじっとしている
（３）全ての階のボタンを押す

第５問　一般的な大きさの粉末消火器の、粉が出る時間はおおむね何秒？
（１）１５秒　（２）３０秒　（３）４５秒

第６問　あなたが外にいる時に大地震が起きた場合、一番正しい避難場所は？
（１）コンビニエンスストア　（２）ガソリンスタンド　（３）交番

第７問　高速道路を走行中に地震にあって脱出する場合、非常階段を使います。非常階段は何キロおきにあるでしょうか？
（１）約１キロ　（２）約２キロ　（３）約３キロ

第８問　平成７年に起きた阪神・淡路大震災において、崩れた建物から助けられた人のうち、近隣住民等により助けられた人の割合はどのくらいでしょう？
（１）約３割　（２）約５割　（３）７割以上

第９問　これらは全て地震災害の時に必要なものです。大きな地震が起きた時、もっとも重要と思われるものはどれでしょう？
（１）水（２）非常食（３）懐中電灯（４）携帯ラジオ（５）スリッパ
（６）医薬品（７）財布（８）多機能ナイフ（９）笛（10）ガムテープ

第10問　さくらピアにある消火器の数は？
（１）１４個　（２）２４個　（３）３４個

解　答

第１問　（３）頭からかぶり、煙を吸わないようにする

空気を入れて頭からかぶると、２～３分呼吸することができます。煙を２呼吸分吸うと、意識を失い、倒れてしまいます。

第２問　（１）本　棚

奥行きが浅く、重い収納物になりがちな本棚がもっとも倒れやすくなります。阪神淡路大震災の際、インテリア学会で調査された結果からも明らかなそうです。

第３問　（２）１７１

「１１７」は時刻、「１７７」は天気予報です。

第４問　（３）全ての階のボタンを押す

階ボタンを全部押し、最初に止まった階で必ず降りるようにしましょう。

第５問　（１）１５秒

種類や大きさによりますが、１５秒前後のものが広く普及しています。

第６問　（２）ガソリンスタンド

ガソリンスタンドは、火にも地震にも強い施設です。阪神淡路大震災では、猛烈な火災がガソリンスタンドで焼け止まりになったという事例があります。

第７問　（１）約１キロ

路面が走行不能になった時や崩壊の危険がある時は、車を降りて非常階段や非常口から脱出します。ちなみに、トンネル内では非常脱出口が４００ｍごとに設置されています。

第８問　（３）７割以上

消防や警察、自衛隊等ではなく、７割以上の人が、近隣住民等により助けられました。日頃からの地域とのつながりが重要です。

第９問　（９）笛

最悪の場合、生き埋めになることも考えられます。脱出できない場合に所在を知らせるため、笛がもっとも重要といえます。地声を張り上げるのでは、疲れてしまうでしょう。阪神淡路大震災ではおよそ３万５千人が生き埋めとなり、自力で脱出できない状況に陥ったとされます。

第10問　（３）３４個　　２０ｍ以内に１個ずつ設置されています。

参加者アンケートより

講演「災害救助最前線」

- 自衛隊の生の声を聞くことができたのがよかったです。
- 今まで知らなかった、自衛隊の活動について知ることが多かったです。
- 自衛隊の組織力が日本にどれだけ大切か、あらためてよく分かりました。
- 自衛隊の方々の熱意ある姿勢に、とても感動しました。
- 聴覚障害者なので、手話通訳者が付いていて助かりました。
- 初めて聞くことが多かったです。テレビや新聞では、ご遺体の捜索や収容について、詳しく報道されていません。部分的にでも知ることができてよかったです。
- 健常者以上に、障害者には救助の手が必要です。もう少し世の人に、障害者の特性を知っていただくことができたら…。
- マイクの声が籠って、よく聞き取れませんでした。

防災グッズ紹介

- グッズ紹介は目からウロコでした。
- 新しい物や便利なものを知ることができてよかったです。

- 防災ＶＣの会の防災グッズ紹介は、何度見ても新しい発見があります。
- 自分が備えている防災グッズは、まだまだ足りていないことが分かりました。
- テレビや新聞等で見聞きしますが、実際に防災グッズに触れることはなかったので、参加できてよかったです。

防災なるほどクイズ

- 問題を出しながら答える進行だったのがよかったです。
- 自分が思う以上に知らないことが多いと感じました。

- 防災クイズは意外と難しくて、間違えた問題が多かったです。
- クイズは知らないことばかりで、面白くためになりました。
- 防災知識を楽しく頭に入れることができました。
- 面白かったです。もっと時間がほしいと思いました。

カレー炊出し体験

- 大変おいしくいただきました。よかったです。（多数）
- ご飯は硬かったけど、カレーはおいしかったです。
- ご飯の量が思ったより多めでした。袋詰めの加減が難しいですね。
- アレルギーへの配慮として、ルーを入れる前に、具材だけを取り出してもらいました。ありがとうございます。アレルギーだけでなくカレー嫌いな人にとっても、また離乳食としても、ルーなしの煮物があると大変助かります。

夜の防災訓練

暗くて怖かった

- 防災講話は、消防署職員の視点からの話だったので、大変勉強になりました。
- 防災講話は面白かったのですが、時間が短かったのが残念です。次回はもう少し時間をとっていただき、続きを聞いてみたいです。
- 防災講話では、体験したことのない災害の話を聞かせてもらってよかったです。
- 防災講話での生々しい映像に、あらためて災害の恐ろしさを感じました。
- 避難訓練に参加したのは初めてだったので、緊張しました。
- 停電を想定して電気を消したり、パトランプの点灯があったりしたので、参加する側もまじめに取り組むことができました。

- 避難訓練では、非常階段が一番のポイントだったと思います。
- 夜に非常階段を使うことができ、いい経験になりました。
- 夜の避難訓練は、思っていた以上に階段が暗かったです。懐中電灯を持っていたのでよかったですが、何もなければかなり怖いと思います。
- 非常口や非常階段にはフットライト等、明るくする工夫が必要だと感じました。
- 非常階段が狭かったです。実際には、よほど気をつけないと危険だと思います。
- 夜に非常階段を使ったのは初めてだったので、怖かったです。
- 消火器を久しぶりに使用して、昔使った時のことを思い出しました。
- 消火訓練では、手話通訳者が見えづらかったです。お立ち台を用意する等、目立つようにしてもらえるとありがたいです。
- 災害時にパニックになってしまわないよう、日頃から訓練を繰り返し経験しておくことが大事だと思います。

宿泊体験①

よく眠れました

- トレーニング室のベッドを使わせていただき、大変よかったです。ありがとうございました。
- 夜１０時に寝ることは普段ありませんが、そのうち眠りに落ち、気付いたら朝の６時でした。知的障害の娘もよく眠れたようです。
- 夜中に大声を上げた子がいたそうですが、それに気づかないほどぐっすり寝てしまいました。
- 体育館は広くてスペース十分、寝具等も多彩で、よく眠ることができました。
- 室温がちょうどよく、マットを借りることもできたので、快適でした。
- 私は７３才ですが、せっかくの訓練なので、ダンボールの上で寝てみました。寝るだけなら問題はなかったので、次回は廊下で寝てみようと思っています。
- 子連れの方の参加もありました。「乳幼児の避難所」を考えていくためにも、宿泊体験はいい機会になると思います。
- 看護師さんの声掛けがあって、うれしかったです。「体調は？」と聞かれるだけでも元気が出ます。「ことば」の力を感じました。

宿泊体験②

- 夜は少し暑くて、あまり眠れませんでした。
- 周りのことが気になってしまい、寝付けませんでした。
- 夜中は子供の泣き声で寝られませんでした。でも、災害時にそんなことは言っていられない、これも災害時には発生することだ、と考えることで、逆に楽しむことができました（笑）

- 夜中に子ども？の泣き声が聞こえてきて、目が覚めてしまいました。
- 体育館は広くてゆとりがありましたが、それでも寝られませんでした。非常灯の明るさ、人の動く音、子どもの泣き声など、避難所生活が長期に渡れば渡るほど、ストレスは増えてくると思います。

- 期限も希望もない中では、人は感情的になってしまうものです。いびきや子供の声もよく響き、気になるものだと感じました。
- 床が硬かったので、寝る時に背中が痛かったです。
- 毎年参加していますが、今回も腰が痛くなりました。
- 息子は障害児で、大声を出す可能性があります。集団生活での迷惑になりかねないので、特別な部屋（個室）がほしいです。
- 手話通訳者の方も参加されていました。私は聴覚障害者なので、手話ができる方がいるだけでも、少し安心しました。
- 夜中に娘が何度も咳をしてしまい、周りの方に申し訳ない気持ちでいます。周りのためにも、自分の予防のためにも、マスクが必要だと感じました。
- 一番楽しみだったのが、宿泊体験でした。寝袋があるだけで、かなり落ち着くことができました。覆われている＝守られている、につながるからでしょうか。
- 思った以上に大変でした。頭の中で考えることと、実際にやってみることには大きな隔たりがあると実感しています。
- 例えば被災者の立場になった時、こういう簡単な訓練でも、経験があるのとないのとでは大違いだと思います。
- 避難所で過ごす人たちの間に、少しの「気配り」がお互いにあるだけでも、過ごしやすさが変わってくると思います。

非常食試食

- おかゆはあったかく、冬に食べられたらとてもありがたいと思います。お味噌汁もおいしくて、朝からしっかり食べられました。
- 梅粥も味噌汁もおいしかったです。参加者との会話もはずみました。
- おかゆだったので、ご飯より温まって良かったです。
- 味噌汁は、いつもどおりおいしかったです。
- アレルギーを持つ人もいるので、実際の災害時にも、味噌汁の具材を書きだしてくれるとありがたいです。日頃の訓練の段階から書いて表示する練習を積むことで、ドタバタしがちな災害時にも、忘れることがなくなると思います。

アンケートにご協力いただいた参加者のみなさま、ありがとうございました。

◆まとめと講評（議事録）◆

本田（さくらピア事務長）

　あらためまして、おはようございます。みなさん怪我もなく、無事にここまでたどりつけてよかったです。今年の避難所体験も、この「まとめと講評」で最後となりました。

草場（豊障連副会長）

　さくらピアを中心として、今後とも地域のみなさんに、豊障連の活動に積極的に参加していただきたく思います。よろしくお願いします。

西尾（豊橋市障害福祉課長）

　昨日の１時半から、避難所体験に参加させていただきました。防災クイズは難しかったですね。１０問全部正解した方はいないのではないでしょうか。私も全ては分かりませんでした。

　夜の避難訓練は初めての試みだそうですが、無事避難誘導が完了してよかったですね。ひとつ、注意点があります。消火器の取り扱いについてですが、もっとも大切なこととして、「逃げ場を作ってから消火活動を行う」ということです。必ず出口を確保してください。

　今回の避難所体験は、みなさんにとって非常に貴重な経験になったのではと思います。あらためてもう一度、防災対策を見つめ直していただくきっかけになったらと考えています。

本田

　それでは、今から参加者みなさんのご意見を伺いたいと思います。

鈴木（育成会副会長）

　みなさんおはようございます。避難所体験には２年ぶり３回目、知的障害の娘との参加でした。娘は「ハートリュック」をとても喜んでいました。しかし、リュックに「知的障害」と書くのは少し戸惑いがあります。とはいえ「育成会」と書いても分からない方が多いと思いますので、家に帰ってからじっくり考えたいと思います。

　講演では、自衛隊の生の声を聞かせていただき、とても貴重でした。防災グッズの紹介も知ることが多かったです。

　防災クイズは難しくて、かなり間違えてしまいました。クイズ形式にしてもらうことにより、いかに知らないことが多いか、あらためてよく分かりました。

　カレー炊き出しですが、ハイゼックス米が硬くて食べにくい、という方が多かったのではないでしょうか。水量調整等を事前に練習しておくといいのかもしれません。

　夜の防災訓練は、最初の放送ですぐにあたふた行動しようとしてしまいました。訓練でもそうなってしまうのですから、本番ではなおさらだと思います。また、夜だったので非常階段が暗かったです。本番ではど

うなるのか分かりませんが、どうにせよゆっくり下りていかなければならないと思います。

夜の宿泊体験は、親子そろってぐっすり眠ることができました。荒木さんのお子さんが夜中に大きい声を２回ほど出してしまったそうで、それで起きてしまった方も多かったそうです。そういう子のためにも、やはり個室が必要だと思います。クーラーがないような状況では、私たちでも落ち着いた生活は難しくなってくるのかなと思います。朝の非常食もおいしく、娘もすっかり満足してしまいました。

「日々訓練していくことで違ってくるんだ」と、避難所体験に参加するたびに、自分に言い聞かせています。避難所体験は、まるで経験したことがないよりは少しは役に立つと信じて、周りの方にも参加を促していきたいと思います。

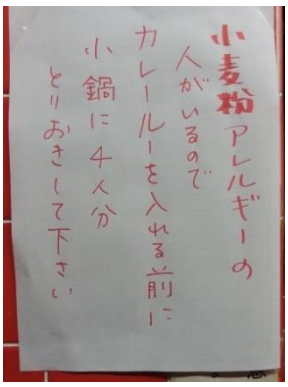
本田

ハイゼックス米の作り方は、今後も実験していきたいと思います。

平田（アレルギーっ子の会）

昨年に続き、ほぼ一日を通して参加させていただきました。今年はカレー炊き出し体験で、アレルギーの子の配慮のために具材を別に取っていただいたおかげで、肉じゃが風に食べることができ、とてもありがたかったです。

宿泊は家族４人で参加させていただきました。子どもはアレルギーがあり、体育館という普段と違う環境への変化や、室温等で身体がかゆくなって声を上げてしまったので、一度児童保育室に移動させていただきました。小さい子やアレルギー持ちの子は、あの体育館では眠りにくいんだなあと実感しました。また、うちの子は聴覚障害もあるのですが、補聴器を取ると耳も聞こえないので、そのあたりの配慮も難しいなと感じました。



朝食のお味噌汁はおいしくいただきました。里芋や大豆のアレルギーを持つ子もいるので、具材を表示する習慣がほしいと思っています。災害時には忘れてしまうかもしれないので、日頃の訓練から準備することが必要だと思います。いろいろ経験することができました。参加してよかったです。

塩田（３才児と参加）

昨年の避難所体験では、参加中に子どもにおっぱいをあげたりしていましたが、今年はその心配はいりませんでした。しかし宿泊時には、普段と違う環境が影響したのか、咳き込んだりしていたので、周りの方に迷惑をかけてしまったかもしれません。こういう場合にマスクが必要になることを実感しました。暑いので今の季節ではあまり着けたくないものですし、子どもも嫌がりましたが、自分の予防のためにもその必要があると思います。お友達もでき、いい体験ができました。

前田（豊身協、低肺機能障害）

私は今回で４回目の参加となります。宿泊体験では毎回のように、これが２、３日続くだけでも大変なことだなあと実感しています。参加された方々の意見にありましたように、子どもさんたちが声を上げてしまうということですが、実際の避難所はこの比ではないと思われます。ですからそんなに気にせず、こんなものだと思ってもらいたいです。いろいろ気を使っていただいているとは思いますが、私たちも、様々な立場について勉強させていただきたいと思っております。

石原（父母の会、肢体不自由児の保護者）

車いすだと床で寝ることはできません。体育館宿泊の際には、簡易ベッドを設置してもらえれば、車いすの方も一緒に体育館で寝ることができると思います。今回は個室で寝ることになりましたが、それでは訓練にはなりません。みなさんといっしょに参加することによって、相手の気持ちを分かるようになりたいです。

斉藤（ボランティア）

去年の初参加でお友達もたくさんでき、今回も参加させていただきました。現場を直接見るということはとても重要ですからね。避難所生活においては我慢を強いられる場面は多々あるでしょうが、障害を持つ方にとっては、それでは済まないことが出てきてしまいます。障害は個別的で様々です。私自身、経験を積み、学んでいきたいと思っています。

防災対策の基本として、日頃から近隣者とのコミュニケーションを通して、情報をつかんでおくことが大事です。それらは、災害が起きてトラブルが発生した時、フィードバックとなるものだと思います。

本田

福祉避難所の中身の決定や、近隣住民との運営を含めて、地域との連携を考えていかなければいけないと思います。今年の豊橋市防災訓練では、福祉タクシーによる移送訓練が実施され、豊障連も参加しました。

木村（豊橋市福祉政策課長）

豊橋市では９か所の福祉避難所が指定されていますが、まだまだ場所が少なく、最寄りの避難所という感じにはなっていません。それは今後の課題であり、積極的に取り組んでいこうというところです。

福祉タクシーの移送訓練にも言えることですが、福祉避難所として、通常の避難所にはないルールを作っていかなければなりません。全国的にもまだまだ発展段階ですが、がんばっていきたいと思っています。

加藤（防災ＶＣの会）

今回で４回目の参加ですが、プログラムがますます充実してきています。防災グッズ紹介では、発表者の尾崎も喜んでいました。みなさんと一緒に勉強を続けていきたいと思います。

本田

さくらピア各階に置いてある「イーバックチェア」は、防災ＶＣの会の方々が浜松市の防災グッズの展示会で知り、私たちに教えていただいたものです。今後もいろいろな提案を受けて、会館の危機管理に反映していきたいと思います。

中神（父母の会会長）

石原さんの娘さんは、昨年の宿泊体験では痙攣を起こしてしまったのですが、今回は無事に終えることができ、よかったと思います。今後も継続してさくらピア避難所体験を実施していただきたいと思います。

本田

重度身体障害の方は本当に大変だと思います。一緒に参加していただけることで、どのような立場であるかを参加者のみなさんに知っていただける、いい機会になると思います。

後藤（豊身協）

豊身協会員の防災意識が年々高まってきました。前田前会長が日頃から口うるさく言っていることが浸透してきたのだと思います。私は宿泊体験で、人生で初めて段ボールで寝てみましたが、ぐっすり眠れました。さくらピアの体育館は広いし、冷房付きで快適ですから、訓練としては環境がよすぎるかなと思います。

福山（手話サークル）

初めて避難所体験に参加させていただきました。講演を聞き、自衛隊の方は日頃から市民のことを考えてくれていることを実感しました。

宿泊体験ですが、体育館では全然眠ることができませんでした。自分自身が慣れていくために、何度も体験することが必要だと思います。

聴覚障害者の方で、「非常灯がまぶしくて寝られない」という方もいました。その一方で、耳が聞こえないので、大きな物音を立てて行動していることが自分には分からない、という現象が起きていて、誰しもなかなか人のことは理解できないなあと実感しました。

朝食のおかゆもおいしかったです。今回の避難所体験は、私の評価としては、全て１００点満点でした。

本田

聴覚障害者は耳が聞こえないので、暗闇がいっそう不安になります。知的障害の子どもたちも不安が増幅し、パニックに陥りやすくなります。灯りは安心感を与えますから、そういった場合に備えるためにも、市にランタンを要望しています。

今回は夜の防災訓練のために、懐中電灯を危機管理課から１０個貸していただきましたが、備品として会館に貸出用のライトやランタンを備えたいところです。市役所職員の方々、よろしくお願いします。

大宮（とよはし総合相談支援センター職員）

今回初めて参加させていただきました。避難所に行ったこともなかったので、戸惑うことが多かったです。実際の避難生活では知り合いもいない状況でしょうから、余計に不安になるのだと思います。恥ずかしいことではありますが、今回参加して、自分が知らないことが多すぎるということを実感しました。

小久保（豊身協）

私は消化器のことでお話しさせていただきたいです。まだ私の家には消火器を取り付けていません。そもそも火災はどこで発生するか分からないものですし、消火器は重たく、私の力では簡単に持ち運びすることができません。取っ手が付いているような消火器があったらいいのかなと思います。

木下（ボランティア）

野菜切りボランティアに参加させていただきました。切った野菜を分けておくことに関しては、最初は不思議に思いましたが、アレルギーの子への配慮ということで納得しました。カレーは、フォーク付きのスプーンの方が、食べやすい方もいるかなと思いました。

菊池（豊身連）

現職時代は避難訓練にたくさん参加しましたが、さくらピアの避難所体験には初めて参加しました。いつ、どういう時に災害が起こるか分かりません。また、人は自分の身がかわいいものですから、他人への配慮も簡単にできるものではないでしょう。実際に被災した場合、助かるには運不運の要素も大きいとは思われますが、自分にできることとして、避難訓練の数を重ねていくことが重要だと思います。

松井（豊橋市社会福祉協議会事務局長）

今回で４回目のさくらピア避難所体験は、第１回目に比べてますます充実し、現実的になってきているなと感じています。

みなさんのお話を聞いて思い出したことがあります。３・１１の大地震の後、災害ボランティア派遣運営のために、うちの職員が被災地に行っていました。そこでは、職員の就寝部屋の、隣の部屋の天井が落ちてきたという事件があったそうです。また、支援者と被災者との間に、対立的な空気があったという報告もありました。そんな状態でしたから、被災当初の一週間程度は相当ひどい状況だったと思われます。しかしそうした状況でも、時間と共に少しずつ工夫が進むことによって、感情は平穏化されていったのだと思います。

障害には個別性があります。私も分かってないし、みなさん自身もまだ十分に把握しきれていないと思います。できるできないの前に、障害当事者であるみなさんから声を出していただき、それを新たな工夫へとたえず繋げていくことが重要であると、あらためて感じています。よく

言われることですが、「体験して、気づき、そして備える」ということを、どんな場面でも肝に銘じておかなければならないのだと思います。

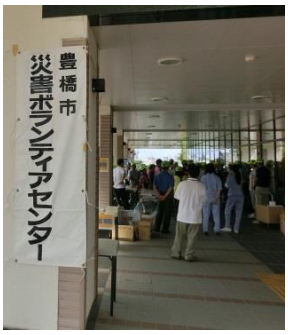
介護サービスの研修で感銘を受けた言葉があります。「訓練以上のことはできない。被災する前に訓練をしなければならない」、「備蓄品は、発災した時にはそこにあるものしかない。それをどう使うか」。そうした体制は、今回のような避難所体験が充実してくるにしたがって、整っていくのだと思います。今後とも、みなさんと共に工夫していきたいと思います。よろしくお願いします。

西尾

豊橋市には１６０か所の指定避難所があり、実際の災害時においては市の職員が管理運営していくことになりますが、障害の特性を知らない者が市の職員にも数多くいます。避難所を運営していく身なら知っておく必要があることです。昨日お配りした資料は、避難所に従事する職員が、個人個人の障害やその特性を理解するためにも重要なものです。例えば、避難所を移転するような場合にも、一から説明し直す必要もなく、効率的な引き継ぎができることになります。

前田

社協さんの平成２０年度災害マニュアルの中に、障害者や児童、高齢者に対する扱い方や注意点が載っています。社協さんが管轄している福祉センターでは、そのマニュアルを参照することになると思いますが、市が作成しているマニュアルと食い違いがないように連携していく必要があると思います。また、「避難者名簿の作成」に関してですが、災害弱者を対象としているのですから、健常者を対象としているものよりも備考欄を充実させる必要があると思います。



松井

そのあたりのものは、この１、２年の間でいろいろな案が出て、現在はその整合性をとっているところです。また、個別支援マニュアルはあくまでも個別性を重視していくという方針から、もう少し詳しいものになっていくはずです。

山下（豊障連会長）

私は、避難所体験が始まった時、「知っていることをお互いに教え合いましょう」と言いました。私からひとつ言っておきます。携帯電話を持っている方は多いと思いますが、昨日の夜の避難時のような暗闇の中では、ライト代わりにもなります。そんなことも覚えておいてもらえれば、とっさの時に役立つかもしれません。

万全の防災体制が整うには、まだまだ時間がかかります。しかし今回いろいろと体験された参加者の方々は、隣の家より助かる確率が高くなったといえるのではないでしょうか。みなさん、本当にお疲れ様でした。

▼考　察▼

避難所体験企画責任者
事務長　本田栄子

＜準備＞

事前にボランティアを募り、テント組立てや、カレーライスの具材切り等を手伝ってもらった。さくらピアの行事ボランティアとして初参加の方が多かったが、内容を明確にして募集したので、高齢の方も「具材切りだけならできる」と積極的に参加し、かつ楽しんでもらうことができた。ボランティア等の作業内容を明確にしておくことは、避難所運営にも常に求められる。

●防災交流会●

＜受付＞

初めての試みとして、米と水をハイゼックス袋に入れ、非常食を作る作業を参加者各自で行ってもらった。ハイゼックス袋と、渡した冊子に番号を記入することによって混同を避け、その後の受け渡しをスムーズに行えるようにした。非常食は、玄関前のテント内に設置した大鍋で一括湯煎した。

反省点として、玄関前の大鍋は視覚障害者等にとって危険なので、誘導者が必要だった。また、火元の番をする人をあらかじめ決めておいたほうがよかった。

＜自衛隊講演「災害救助最前線」＞

昨年度「３・１１セレモニー」での保健師の講演会では、自衛隊設置のお風呂の入浴時間を、障害者と一般で別々に設けるように交渉したという話を聞いた。それに関連する形で、自衛隊に講演を依頼した。自衛隊地域事務所の方々も初めてさくらピア来館されたそうで、新たな「地域のつながり」ができてよかった。

※Ｐ８０参照

＜防災なるほどクイズ＞

身近な問題を集めたので、積極的に参加しやすく、かつ楽しめるものとなった。出題はピアカウンセラーの方が務めたが、声が聞き取りやすく、また会場への問いかけも上手で、盛り上がった。

※Ｐ８２～８３参照

＜大災害！！その時役立つ知恵袋＞

恒例となった防災ＶＣの会による防災グッズ紹介。必需品を中心に、新発売や開発中のもの、また手作り品など、実物を見せながらの説明なので分かりやすかった。

※Ｐ８１参照

＜カレーライス試食＞

配膳は大きな混乱なく行き渡った。参加者アンケートを見ると、ご飯が硬くてほぐしにくかったらしい。次回は改善したい。また、スプーンは先が割れているものがいいのでは、との意見があった。食器については毎回意見が寄せられている。自分に合ったものを各自で用意してもらう方が、トラブルを避けることができると感じている。

※Ｐ８４参照

●夜の防災訓練●

＜避難訓練＞

訓練地震放送では「慌てて行動しないで、指示に従ってください」と伝えたが、すぐに立って動こうとする方が多かった。また、指示者を決めていなかったのも問題だった。普段からの利用団体にも協力していただき、有事の指示体制を整える必要がある。

移動には非常階段を使用したが、夜の非常階段は暗くて怖かった、という意見が多かった。階段にセンサーライトをつけたらどうかという提案もあった。無事全員が避難できたのでよかったが、部屋の電気を消した時には悲鳴やどよめきが上がった。停電は予想以上に人の心に不安をもたらすといえる。

※Ｐ８５参照

●宿泊体験と非常食試食●

＜受付＞

カレーライス試食が午後４時頃だったので、宿泊体験参加者には夜食を用意した。参加者各自で就寝場所を決めてもらい、マット等は高齢者から順に配布した。

重度障害者にはトレーニング室を用意し、非常時のスムーズな対応を図るため、看護師も同室とした。

※Ｐ８５～８６参照

＜出張理容室＞

障害者も助ける立場になれることを実感してもらうため、会館利用者である理容店経営の聴覚障害者２名を招いた。福祉避難所で障害者が安心して過ごせることに加え、障害者自身が主体的に活動できる環境作りを考えていきたい。

＜非常食試食＞

起床後、看護師による健康チェックを実施した。参加者からは「ラジオ体操はやらないの？」という声が聞かれ、早起きをして散歩する方もいた。

例年同様、参加者に準備を協力していただいた。味噌汁と梅粥は共に好評だった。以前のハイゼックス米は硬めに仕上がることが多く、朝食としては重いため、梅粥のほうが適していると思う。

※Ｐ８６参照

●まとめと講評●

今回は「夜の話合い」を設けなかったので、なるべく多くの方に意見を聞いた。宿泊体験には初参加の方が多く、ためになる指摘が多々あった。

※Ｐ８７～９２参照

配布物・提供物

①防災交流会　…冊子、ハートリュック、飲料水、カレーライス　②夜の防災訓練…冊子、ハートリュック、ハンカチ
③宿泊体験と非常食試食　…冊子、ハートリュック、夜食、飲料水、梅粥、味噌汁、新聞記事、速報写真
④まとめと講評…冊子、ハートリュック

展示物

・防災月間関連新聞記事　・救急医療情報キット　・自衛隊活動写真　・防災グッズ
・ハートリュックの使い方　・豊橋市内避難所一覧表　・障害者防災関連冊子

借用物品　・炊き出し用大鍋、懐中電灯（豊橋市防災危機管理課）　・包丁、まな板、ざる、ボウル（八町地域福祉センター）

●課題と今後に向けて●

・障害者防災の話題つくり

昨年度配布した「さくらピア防災カード」は、その後も福祉施設等から要望があり、作成した１０００部は全て出回った。防災カードには毎月の来館時にシールを貼る欄を設けており、失語症のグループが１年間シールを貼り続けてくれた。

今回は、自己紹介、避難場所、非常持ち出し物品等を考え直すきっかけとして「さくらピアハートリュック」を制作した。障害名を書くには躊躇する方もいると思われるが、そこは各自の判断に任せたい。

今年９月１日には、旭校区防災訓練に豊障連が参加し、福祉避難所受け入れ訓練として受付を行った。様々な方面から、障害者防災の必要性を訴えていきたい。

・避難訓練

今回は参加者を一か所に集め、事前にグループ分けを行って一斉に避難したが、次回は通常活動中での発災を想定し、利用者がそれぞれの部屋にいる状態から訓練を実施したい。利用団体ごとに主体的に行動してもらうことによって、有事への実践的かつ効率的な訓練になることを期待したい。

・ソフトの防災対策

第一次・第二次避難所には「避難所運営マニュアル」があり、組織体制や生活ルールについて述べられている。福祉避難所として、さくらピアは設備や職員数等、不安が多い。また、部屋やトイレがバリアフリーだからといっても、それだけで福祉避難所が機能すると考えてはいけない。ハード面でのバリアフリーに甘んじることなく、ソフト面での「防災力」についても検証し対策を整えていかなければ、大震災の教訓が活かされないままになってしまう。

・安全管理体制の強化

「夜の防災訓練」で、非常階段の暗がりの危険性を認識した。階段の足元にはセンサーライト等の設置が望まれる。また、各部屋へのランタン配備、貸出用懐中電灯、簡易ベッド、救助用工具一式の備蓄等が求められる。

●おわりに●

豊障連が指定管理を受けている以上、さくらピアは福祉避難所としてだけではなく、障害者のための情報収集・発信基地となることが求められる。「障害者の防災コミュニティ」の拠点として、各障害者団体との連絡体制を整えていきたい。

３・１１追悼セレモニー

障害者の防災を考える集い　２０１２年３月１１日（日）

ステージの背景は
豊橋聾学校の茨田章太君が
２日がかりで描いてくれました

牛タンカレー、クッキー、ストラップ等、
被災地から取り寄せた商品を販売しました

東北支援バザー

おとなもチャレンジ

こども
チャレンジ

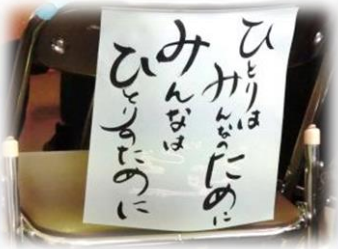
ジャグリング体験

おみごと！

大好評につき、完売しました
ありがとうございました

豊障連会長
あいさつ
「障害者の災害死亡率は健常者の２倍です。東海地震に備えて、防災意識を高めましょう」

黙　祷
午後二時四十六分



被災地支援報告
保健師　花井詠子 氏

参加者全員が手をつないで
黙祷を捧げました

障害者が、自衛隊のお風呂に
入れるように支援してきました

みなさん、真剣に話を聞いていました

ジャグリングごっこ
Ｙｕ＆Ｋｅｉ
名古屋の自閉症パフォーマー
Ｙｕ君、大活躍！
お母さんとの息もピッタリ！
手話ライブ　ウイング
・翼をください
・ビリーブ
・てのひらを太陽に
・千の風になって
夢
仲間
絆
ご出演ありがとうございました

さくらピアの四季

春　　夏

秋　　障害者のみなさんの、さんか、つながり、あそび、せいかつを応援します　　冬